トラクタ

取扱説明書

MT501・551・601



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

もくじ

安全に作業をするために 4
公道走行とナンバープレートについて 24
サービスと保証について 25
仕様について 26
本製品の使用目的について 26
方向・位置マークについて 26

1
各部のなまえ 27
安全銘板の貼り付け位置 29
各部のはたらき 31

2
運転と作業のしかた 44
1. 作業前の点検 ……44
2. ならし運転(最初の50時間)について ‥47
3. エンジンの始動・停止のしかた ……47
4. 作業機を上下させるには ……49
5. 作業機の降下速度の調節のしかた …50
6. バックアップ装置の使いかた ……50
7. 発進・停止・駐車のしかた ……51
8. 道路走行のしかた ……53
9. 坂道での運転のしかた ……54
10. ほ場への出入りのしかた ……54
11. 作業に適した速度の選びかた ……55
12. ほ場での旋回のしかた ……56
13. ダイヤクイックターン(前輪増速)運転のしかた ……56
14. ロータリー耕うんのしかた ……57
15. デフロックの使いかた ……58
16. トラックへの積込み・積降しのしかた ……59
17. 車輪幅(輪距)の調節のしかた ……60
18. サブコントロールバルブ(2連)の使いかた ……61
19. 油圧外部の取り出しかた ……62
20. 外部電源・充電コンセントについて ‥63
21. 3点リンクについて ……64
22. リフトロッドシリンダ外部操作スイッチの使いかた ……65
23. スイングドローバの使いかた ……65
24. 作業機の取り扱いについての注意事項 ‥66
25. パワーステアリングについて ……67
26. フロントウエイトについて ……67

3
E-JACについて 68
1. 各部のなまえとはたらき ……68
2. 基本的な使いかた ……72
3. Eモードの使いかた ……73
4. 高速耕うんに適した車速 ……75
5. 3P切換えスイッチ ……75
6. センサ異常時の表示について ……76
7. ヒューズについて ……76

4
作業後の手入れについて 77
1. 作業後の手入れ ……77
2. フロントマスク・サイドカバーの開閉のしかた ‥77
3. 燃料の点検・給油のしかた ……78
4. 長期間使用しない場合の手入れ ……79

5
定期の点検・調整について 80
1. 定期点検一覧表 ……81
2. オイル・グリス・不凍液一覧表 ……82
3. 給油・給水一覧表 ……82
4. 各部オイルの点検・交換のしかた …82
5. 各部エレメントの交換のしかた ……84
6. 冷却水の点検・交換のしかた ……86
7. 燃料の空気(エア)抜きのしかた ……87
8. ラジエータスクリーンとエアクリーナエレメントの掃除・交換のしかた …87
9. バッテリの点検のしかた ……89
10. パイプ類の点検について ……89
11. 電気配線の点検について ……90
12. グリスアップ(注入)について ……90
13. ブレーキの点検・調整について ……91
14. クラッチの点検・調整について ……92
15. ハンドルの点検・調整について ……92
16. ファンベルトの点検・調整について ‥‥93
17. トーインの点検・調整について ……93
18. ヒューズ・ヒュージブルリンクの点検・交換について ……94
19. タイヤの点検について ……95
20. 排気ガスの色について ……95

6
キャビンについて 96
1. 各部のなまえ ……96
2. ドアの開閉のしかた ……97
3. サイドウインドの開閉しかた ……97
4. リヤウインドの開閉のしかた ……98
5. サンバイザ ……98
6. スイッチの使いかた ……99
7. ヒューズの点検・交換について ‥‥101
8. FM・AM付ラジオカセットの使いかた ……101
9. エアコンの使いかた ……102

キャビンの手入れと点検・調整 105
1. エアコン定期点検一覧表 ……105
2. 日常点検のしかた ……106

7
不調診断 109
1. エンジン関係 ……109
2. クラッチ・ブレーキ関係 ……111
3. 油圧関係 ……112
4. 電装関係 ……113
5. ロータリー関係 ……113

用語解説 114
仕様 115
標準付属品 119

安全に作業をするために

ここに記載されている注意項目を守らないと、
死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

● 一般的な注意項目

⚠ 警告　排気ガスには十分に注意する

締め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。
エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

【守らないと】

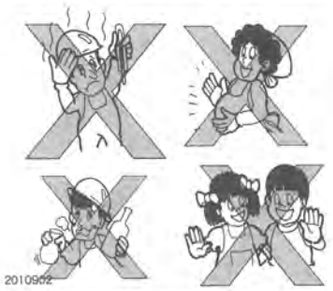
排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたるおそれがあります。



2015401

⚠ 警告　こんなときは運転しない

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 18才未満の人。


2010902

⚠ 警告　作業に適した服装をする

はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した防護具などを付け、だぶつきの無い服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。


2010903

⚠ 警告　シートベルトを必ず装着する

腰骨に当たるようにシートベルトを締めてください。

【守らないと】

転落・転倒事故をおこした場合に、死亡または重傷を負うおそれがあります。



⚠ 警告　操作時はチルトハンドルを固定する

ハンドルの調節時以外には必ず、チルトハンドル操作ペダルは操作せずに固定してください。

【守らないと】

思うように旋回できずに、事故をおこすおそれがあります。


2015402

⚠ 警告　機械を他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



2015403

⚠ 警告　運転者以外に人を乗せない

このトラクターの乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。

【守らないと】

思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。


2015404

⚠ 警告　エンジン始動時は必ず運転席にすわり周囲の安全確認をする

エンジン始動時は必ず運転席にすわり、シートの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】

思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。



2015405

⚠注意 寒冷時は暖機運転を実施する

寒冷時は暖機運転を必ず行ってください。

【守らないと】

トラクターの性能が十分に発揮出来ません。

⚠注意 マフラの高温に注意

運転中およびエンジン停止直後の、マフラは高温ですので、触れないでください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2015406

⚠注意 機械の改造禁止

純正以外や指定以外のアタッチメントを取り付けないでください。
改造をしないでください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。



2015407

⚠注意 点検・整備を行う

機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。特に、クラッチ・ブレーキ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備してください。

【守らないと】

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。



2015408

⚠注意 定期点検整備を受ける

1年毎に定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。特に、パワーステアリングのホースは2年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。



2015408

●作業前後の確認時の注意項目

⚠危険 注油・給油はエンジンが冷めてから行う

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれあります。


2015409

⚠危険 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明は、絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料に引火し、火災をおこすおそれがあります。


2010911

⚠危険 バッテリ点検時は火気厳禁

バッテリの点検・充電時は火気厳禁です。

【守らないと】

バッテリに引火、爆発してヤケドなどを引きおこすおそれがあります。


2010913

⚠ 危険　バッテリ液は体につけないようにする

バッテリ液を身体や服につけないようにしてください。
万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

【守らないと】

ヤケドをしたり、服が破れるおそれがあります。



⚠ 危険　燃料もれに注意

燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。

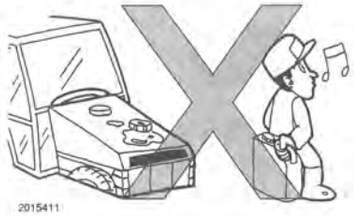


⚠ 危険　燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



⚠ 警告　点検整備は平坦で安定した場所で行う

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクターの前輪には車止めをして点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



⚠ 警告　マフラ・エンジン囲りのゴミは取り除く

マフラやエンジン周辺部にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



⚠ 警告　タイヤには、規定の最大空気圧以上に空気を入れない

タイヤに空気を入れる際には、規定の最大空気圧以上に空気を入れないでください。

【守らないと】

タイヤが破裂し、傷害事故をおこすおそれがあります。



⚠ 警告　電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災事故をおこすおそれがあります。



⚠ 警告　ブレーキ・ハンドルの点検を必ず行う

ブレーキのききが悪かったり、片ぎきがないように、またハンドルに著しいガタや遊びがないように、点検をしてください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



⚠注意　バッテリの取り付け取り外しは正しい手順で行う

バッテリを取り付けるときは＋側をさきに取り付け、取り外すときは一側から取り外します。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010917

⚠注意　点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。



2015416

⚠注意　カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2015417

⚠注意　点検整備は過熱部分が十分冷めてから行う

マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2015406

⚠警告　高圧オイルに注意

油圧の継手やホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、継手やホースをはずす前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010967

⚠注意　使用していないPTO軸にはカバーを付ける

PTO軸を使用しないときは、グリスを塗りカバーを付けておいてください。

【守らないと】

巻き込まれたりして傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2015418

⚠注意　目的に合った工具を正しく使用する

点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。また点検調整に必要な工具はトラクターに常備しておいてください。

【守らないと】

整備不良で事故を引きおこすおそれがあります。



2015419

●作業機に関する注意項目

⚠警告　作業機の着脱は平坦な場所で行う

作業機の着脱は、平坦で安定した場所で行ってください。夜間は、適切な照明をしてください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



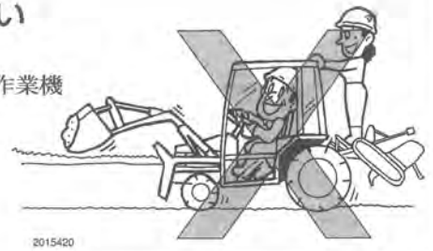
2010939

⚠警告 人や物をウエイト代りにしない

バランスウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純性のバランスウエイトを使用してください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2015420

⚠警告 トラクターと作業機の周辺に人を近づけない

トラクターを移動して作業機と着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2015421

⚠警告 重い作業機を付けるときはウエイトでバランスを取る

重い作業機を装着したときは、フロントにバランスウエイトを付けて、バランスを保ってください。

【守らないと】

バランスを崩し事故を引きおこすおそれがあります。



2015422

⚠警告 トラクターに作業機を装着する時は、作業機の取扱説明書を必ず読む

トラクターに作業機を装着する時は、事前に必ず作業機の取扱説明書をよく読んでください。

【守らないと】

傷害事故や機械の破損を引きおこします。



2015423

⚠警告 傾斜地やけん引作業をするときは、輪距(左右のタイヤ間の幅)を広くする

【守らないと】

転倒事故を引きおこすおそれがあります。



2015424

⚠警告 作業機を付けたときは旋回に注意

作業機によってはかなりの長さになるものがありますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。

【注意しないと】

作業機が衝突したりして、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2015425

⚠警告 トレーラをけん引するときの注意

道路運送車輌法により、最高速度20㎞/h以上のトラクターで、トレーラ重量とトレーラ規定最大積載重量の合計が2000㎏を超えるトレーラをけん引する場合は、トレーラ側のブレーキとトラクターのブレーキを必ず連結し、灯火類のコードも連結してください。

また、坂道での変速はしないでください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2015426

⚠警告 作業機の下にもぐったり、足を入れない

作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

作業機が下がったときに、傷害事故負うおそれがあります。



2015427

⚠警告 ローダー作業時は前後バランスに注意

ローダー作業時は、前後の一方向にバランスがかたよらないように、ウエイトまたは作業機を装着してください。

【守らないと】

バランスを崩し転倒事故を引きおこすおそれがあります。



⚠警告 作業機指定のPTO回転を守る

低速回転用の作業機を高速回転で使用しないでください。作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。

【守らないと】

作業機が異常作動し、事故や機械の破損を引きおこします。



●運搬時の注意項目

⚠危険 積込み、積降し時は左右のブレーキペダルを連結する

積込み、積降し時は、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

【守らないと】

緊急時ブレーキ操作を行った際、ブレーキが片ぎきして転落などの事故を引きおこします。



⚠警告 あゆみ板の上では、だ性運転はしない

坂道やあゆみ板の上での走行は十分注意して行ってください。クラッチを踏んだり、副変速・シャトルレバーを「N」(中立)位置にしてのだ性運転はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下がり、転落などの事故をまねくおそれがあります。



⚠警告 強度・長さ・幅の十分あるあゆみ板を使用する

積込み、積降しをするときは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け車止めをしてください。使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップのしないものを選んでください。

【守らないと】

転落などの事故を引きおこすおそれがあります。

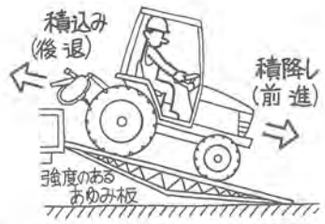


⚠警告 登るときは後退、降りるときは前進で行う

トラックに積込むときは後退で、降りるときは前進で行ってください。

【守らないと】

バランスを崩し、転落などの事故を引きおこすおそれがあります。



⚠警告 ロープでトラックに確実に固定する

トラックにのせて移動するときは、駐車ブレーキを掛け、ギヤを入れて強度の十分あるロープでトラックにトラクターを固定してください。

【守らないと】

荷台からトラクターが転落したりして、事故を引きおこすおそれがあります。



●移動・ほ場出し入れ時の注意項目

⚠警告 関係法規を守り安全運転を行う

道路を走行するときは、関係法規を厳守し、シートベルトを締め、ヘルメットをかぶってください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



⚠警告 周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進する

周囲の安全を確認してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

傷害事故をおこすおそれがあります。



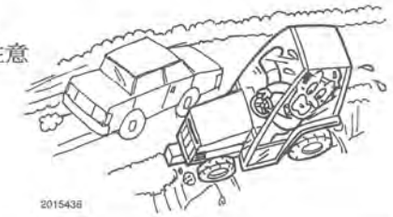
2015435

⚠警告 移動時は路肩に注意

溝のある農道や両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意してください。

【注意しないと】

転落事故をおこすおそれがあります。



2015436

⚠警告 移動走行時は左右のブレーキペダルを連結する

移動走行時には、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

【守らないと】

ブレーキ操作の際、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。



2015437

⚠警告 急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、十分スピードを落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、十分速度を落としてください。

【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。



2015438

⚠警告 坂道・あゆみ板の上では変速禁止

あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道やあゆみ板の上では、変速をしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、事故をおこすおそれがあります。



2015431

⚠警告 溝・あぜを渡るときはあゆみ板を使用する

ほ場に入るとき、溝・あぜを渡るとき、軟弱な場所を通るとき、必ずあゆみ板を使用してください。あゆみ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による事故をおこすおそれがあります。



2015445

⚠警告 公道走行時は作業機の装着禁止

公道走行をするときは、ロータリなどの作業機を取り外してください。

【守らないと】

道路交通法違反です。事故を引きおこすおそれがあります。



2015434

⚠警告 公道走行をするときは道路交通法規を厳守してください

【守らないと】

事故をおこすおそれがあります。



2015434

⚠注意　暖気運転中は駐車ブレーキを掛ける

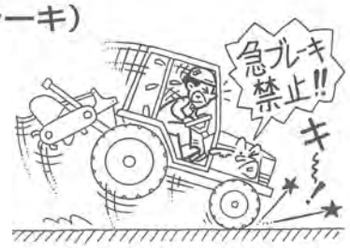
【守らないと】
トラクターが自然に動きだし、事故をひきおこすおそれがあります。



2015440

⚠注意　高速走行時、急激なクラッチ（ブレーキ）ペダル操作はしない

【守らないと】
転倒・転落事故をおこすおそれがあります。



2015441

● 作業時の注意項目

⚠警告　ハウス内での作業では換気を十分にする

排気ガスが充満しないように、十分に換気を行ってください。
【守らないと】
排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたるおそれがあります。



2015442

⚠警告　爪に巻き付いた草などを取るときはエンジン停止

【守らないと】
機械に巻き込まれて、重傷を負うおそれがあります。



2010949

⚠警告　子供を近づけない

子供には十分注意し、近づけないようにしてください。
【守らないと】
傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2015443

⚠警告　ロータリ作業ではダッシュに注意

地面が硬かったり、石の多いところでは、ロータリをゆっくりと地面に降ろしてください。回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛出す（ダッシュ）ことがあります。
【守らないと】
傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2015444

⚠警告　あぜ越え、段差越えのときはあゆみ板を使用する

田・畑への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときはあゆみ板を使用し、地面に接地しない程度に作業機を下げ重心を低くしてください。
【守らないと】
バランスを崩して転倒するおそれがあります。



2015445

⚠警告　わき見、手放し運転はしない

【守らないと】
傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2015446

⚠警告 エンジン始動時は、作業機が下がっているか確認

エンジン始動時は、作業機上下レバー「最下」、バックアップボタン「切」にして、作業機が下がっていることを確認してください。

【守らないと】

作業機が不意に下がり、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2015447

⚠警告 機械から離れるときは平坦地に置きエンジンを止める

機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け車止めをしてください。また、作業機は地面に接地してください。

【守らないと】

トラクターが動きだし、事故をおこすおそれがあります。


2015448

⚠警告 旋回時はデフロックを切る

必ずデフロックを切って旋回してください。

【守らないと】

思うように旋回ができずに、事故を引きおこすおそれがあります。


2015449

⚠警告 けん引作業はドローバを使用

けん引作業は必ずドローバを使用してください。トップリンクやロアリンクなどでのけん引は絶対しないでください。

【守らないと】

転倒のおそれがあります。



2015450

●作業終了後・格納時の注意項目

⚠危険 注油・給油はエンジンが冷めてから行う

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれあります。


2015409

⚠危険 ラジエタが熱いときはキャップを開けない

ラジエタが過熱しているときには、絶対にラジエタキャップを開けないでください。

【守らないと】

熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。

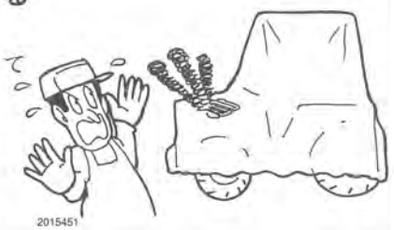

2010912

⚠危険 シートは機械が十分冷めてからかける

機械にシートをかける場合は、マフラやエンジンが十分冷えてからかけてください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。


2015451

⚠警告 点検整備は平坦で安定した場所で行う

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクターの前輪には車止めをして点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



2015412

⚠警告 マフラー・エンジン囲りのゴミは取り除く

マフラーやエンジン周辺部にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



2015413

⚠警告 電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災事故をおこすおそれがあります。


2015415

⚠警告 長期格納時はバッテリとキーを外す

長期間使用しないで格納する場合はバッテリを取り外し、キーを抜き取り保管してください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



2015452

⚠注意 高圧オイルに注意

油圧の継手やホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、継手やホースをはずす前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010967

⚠注意 バッテリの取り付け取り外しは正しい手順で行う

バッテリを取り付けるときは⊕側をさきに取り付け、取り外すときは⊖側から取り外します。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010917

⚠注意 点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。


2015416

⚠注意 カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引きおこすおそれがあります。


2015417

⚠注意 点検整備は過熱部分が十分冷めてから行う

マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2015406

公道走行とナンバープレートについて

公道走行をするためには

⚠警告

- **公道走行するときは、道路交通法等の関係法規を厳守してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**

このトラクターは、道路運送車両法の小型特殊自動車です。

- 公道を走行する場合は、大型特殊自動車の運転免許証が必要です。必ず免許証を所持してください。
- 勝手に構造等を変更した場合は、道路を走行する為の基準に不適合となり、公道を走行することができなくなることがありますのでご注意ください。
- 作業機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。必ず作業機を取り外して走行してください。
- 道路運送車両法では作業灯は**「道路走行中に使用しない灯火」**とされています。他の交通妨害になりますので、道路走行中は点灯しないでください。
- 作業により変更した輪距などは、必ず標準状態に戻してから走行してください。(60ページ参照)
- 道路運送車輌法により、最高速度20㎞/h以上のトラクターで、トレーラ重量とトレーラ規定最大積載重量の合計が2000㎏を超えるトレーラをけん引する場合は、トレーラ側のブレーキとトラクターのブレーキを必ず連結し、灯火類のコードも連結してください。

必ずナンバープレートの交付を受けてください

このトラクターは小型特殊自動車なので、公道走行をするしないにかかわらず、必ずトラクター取得の届け出を行い、ナンバープレートの交付を受けてください。
交付されたナンバープレートは、ナンバープレート取付位置に取り付けてください。



〈届け出のしかた〉
小型特殊自動車販売証明書（各販売店・農協が発行します）ならびに、小型特殊自動車届け出書に軽自動車税を添えて、市町村役場へ提出してください。
※市町村により、手続きが多少異なりますので詳しくは、販売店または農協にご相談ください。

損害賠償保険について

農耕作業用小型特殊自動車は、自動車損害賠償保険法第2条の**「自動車」**から省かれ、強制保険の対象から除外されております。万一の場合を考えて自動車保険の契約を希望される場合は、自動車共済、または任意自動車保険にご加入ください。

サービスと保証について

保証書について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに、109ページの**「不調診断」**に従って点検、処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、お近くの当社支店までご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
  (何速で、どんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
  (約□□アールまたは約□□時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えください。





補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

仕様について

本機には下記の仕様があり、取扱説明書の内容で、仕様によっては該当しない項目もあります。

仕様記号

ハイラグタイヤ仕様 ……無印	サブコントロールバルブ仕様……Z
並ラグ大径タイヤ仕様 ……WA	フロントローダー仕様 ……F
ハイラグ大径タイヤ仕様……W	

本製品の使用目的について

本製品は、ほ場においてのロータリー耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業および路上でのトレーラけん引作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
(詳細は、保証書をご覧ください。)

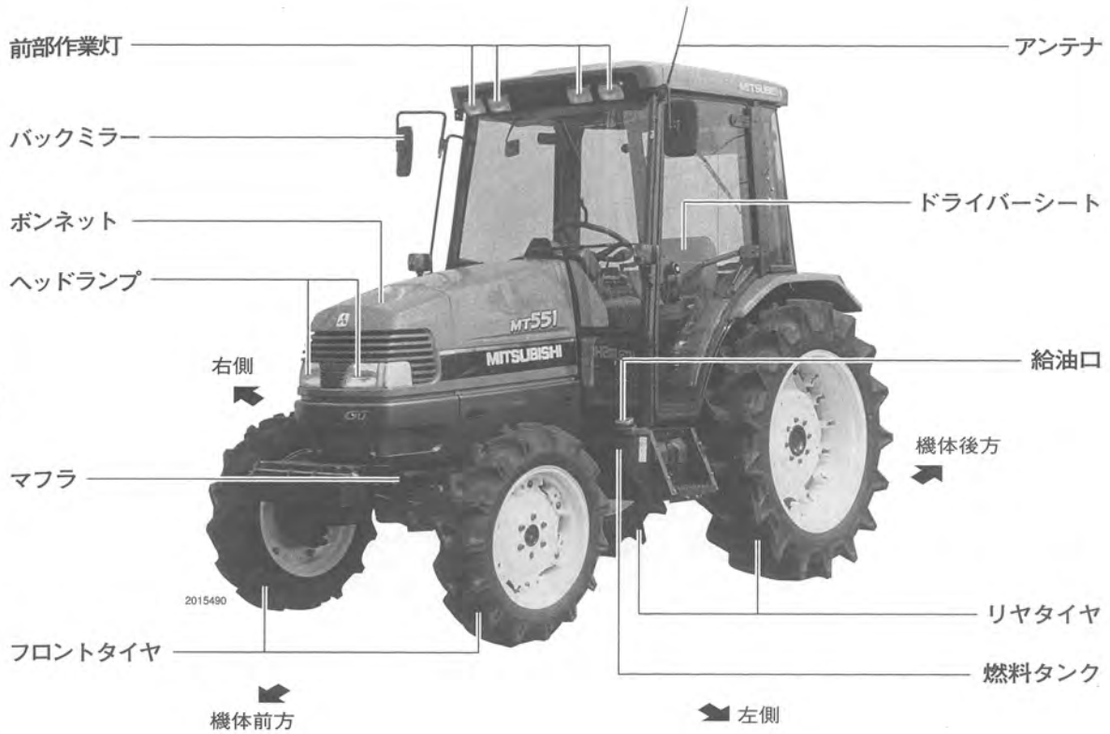
方向・位置マークについて

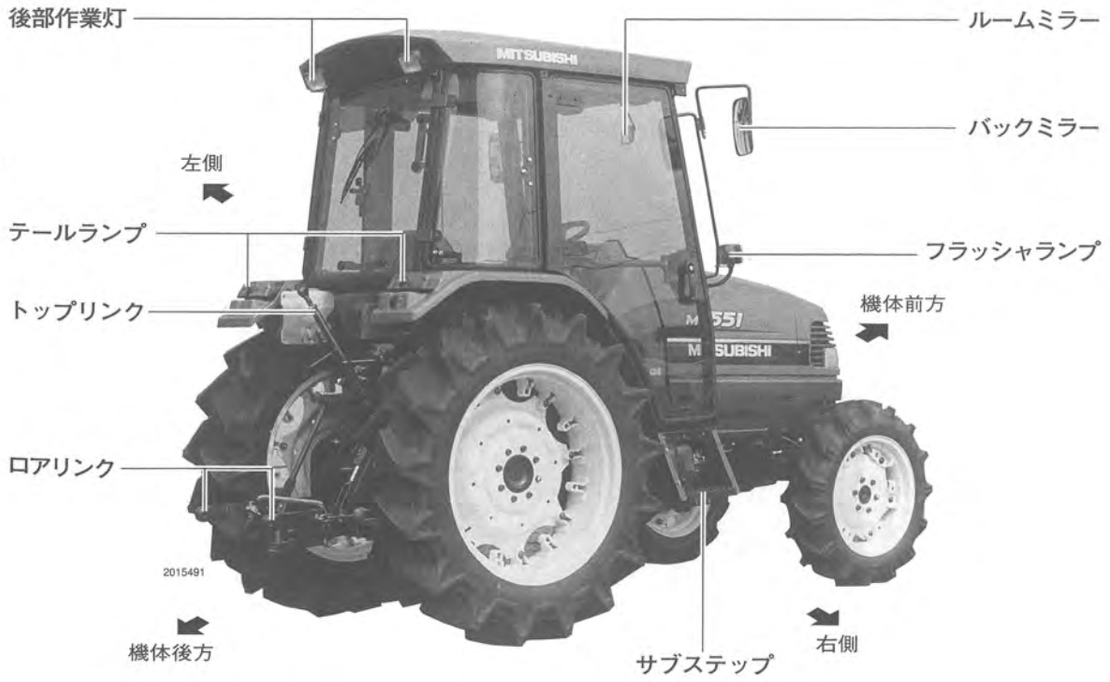


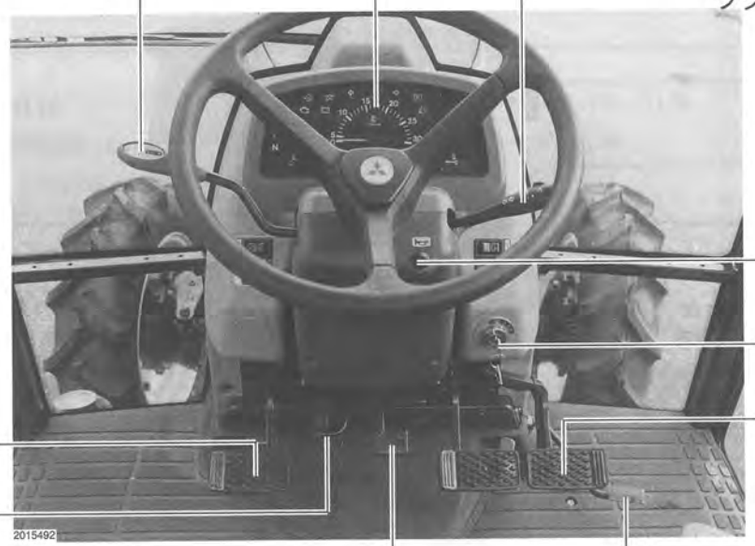
本機のどの位置にあるか、
「見ている方向(←印)」をあらわしています。

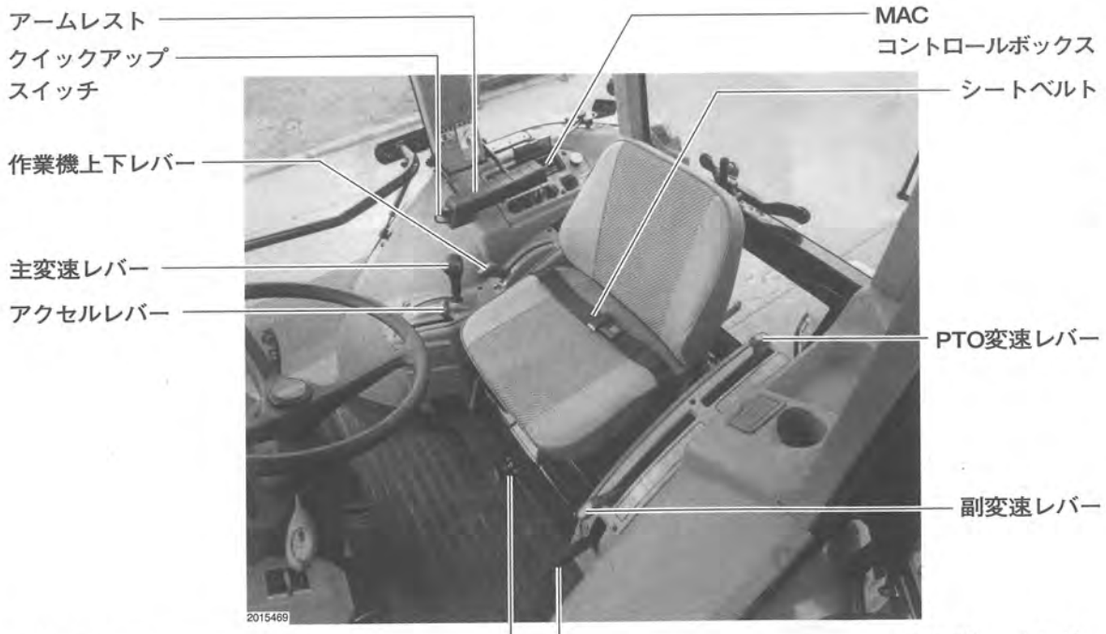
各部のなまえ

この取扱説明書の説明図は、本機MT551を基準にしています。





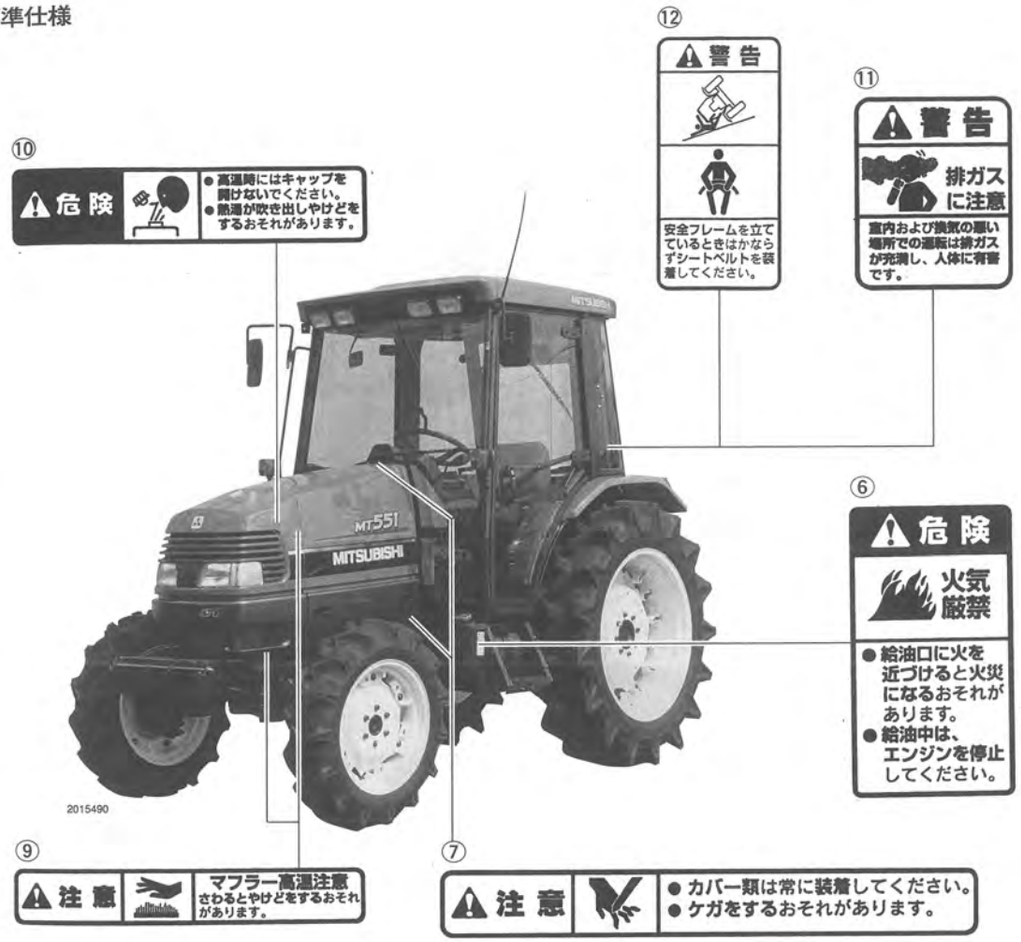




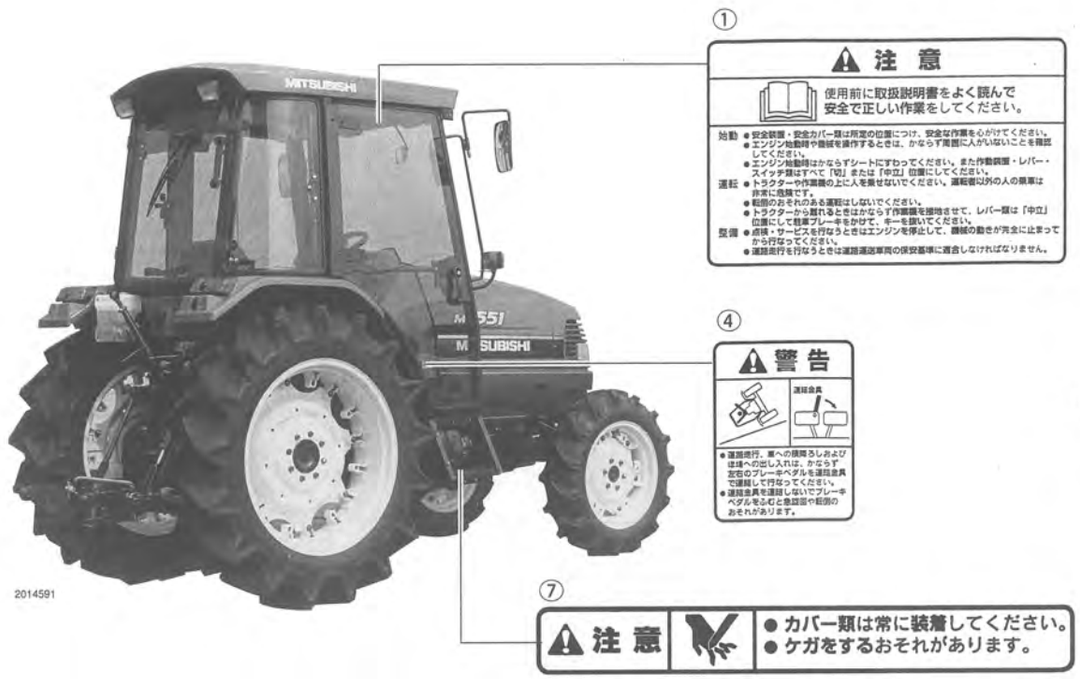
安全銘板の貼り付け位置

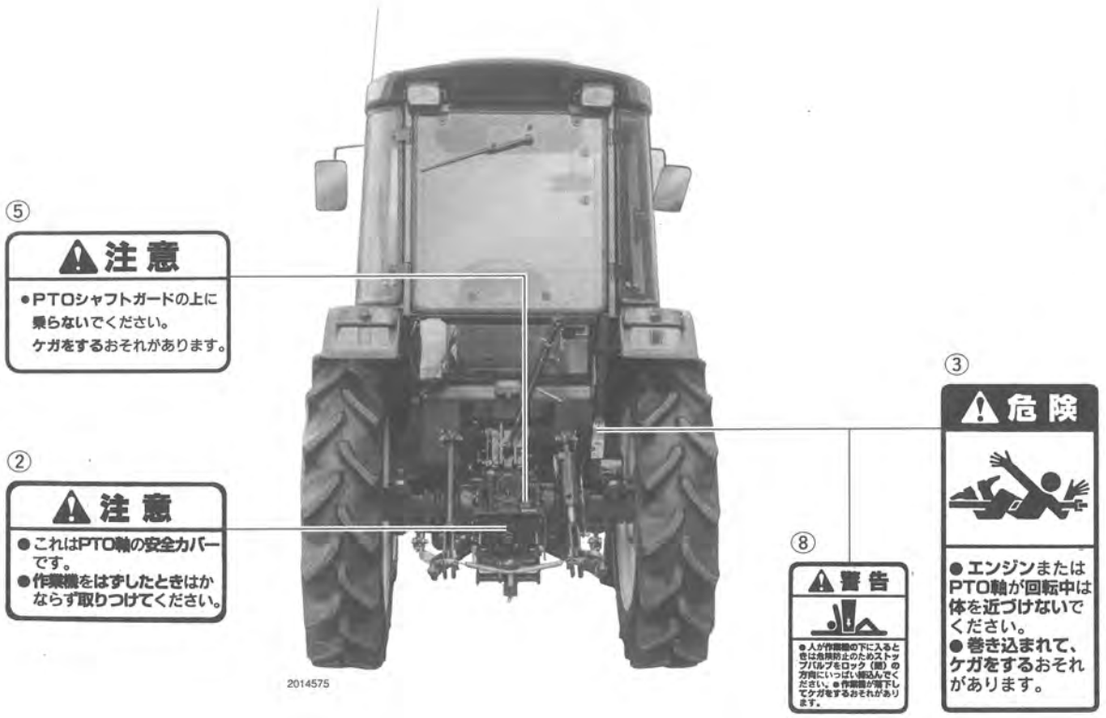
安全に作業していただくために安全銘板の貼り付け位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。

標準仕様



No.	部品番号	品名	No.	部品番号	品名
①	903000 29300	注意（安全運転）	⑧	903000 29380	警告（油圧）
②	903000 29310	注意（PTO カバー）	⑨	903000 29390	注意（高温注意）
③	903000 29320	危険（回転軸危険）	⑩	903000 29400	危険（ラジエタ）
④	903000 29330	警告（ブレーキペダル）	⑪	935400 00090	警告（排気ガス）
⑤	907600 12750	注意（ノルナ）	⑫	903000 29340	警告（シートベルト）
⑥	903000 29350	危険（火災）	⑬	903000 29420	警告（シートベルト）
⑦	907600 12730	注意（カバー）			





エンジンコントロール関係



❶メインスイッチ



⚠注意

- **トラクターを使用しないときは必ずキーを抜いて、安全な保管場所にキーを保管してください。守らないと、児童などが操作し、事故を起こすおそれがあります。**

エンジンの始動に使用します。

「切」　エンジンが停止し、電流が流れません。(キーを抜き取れます)

「入」　各電装品スイッチに電流が流れます。
エンジンが停止している場合、エンジン油圧パイロットランプとチャージパイロットランプが点灯します。また、外気温度によりサーモスタートパイロットンプも点灯します。

「始動」　セルモータが回転し、エンジンが始動します。エンジンが始動したらキーから手を離してください。キーは自動的に「入」の位置に戻り、連続運転に入ります。

❷アクセルレバー



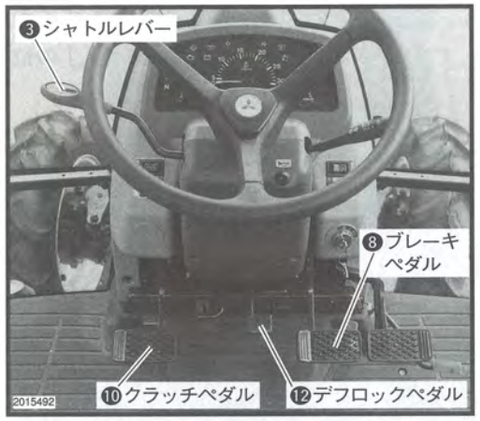
エンジン回転を速くしたり、遅くしたりするのに使用します。一定回転で作業する場合に使用します。

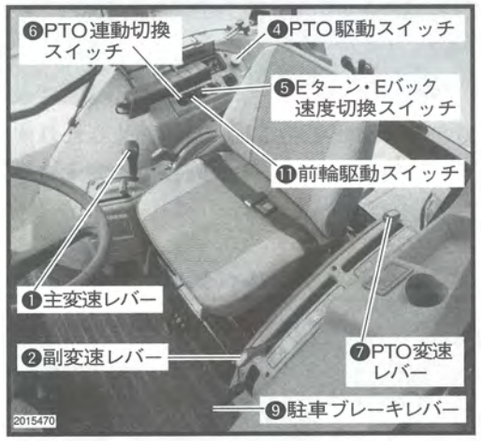
❸フートアクセルペダル



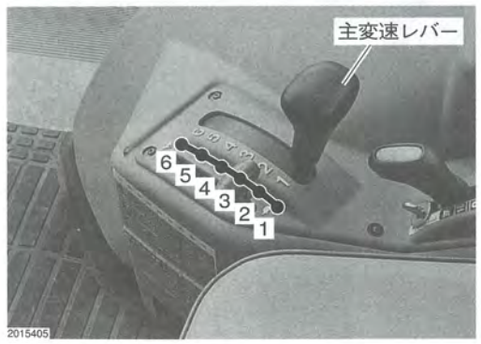
エンジン回転を速くしたり、遅くしたりするのに使用します。主に路上走行時に使用します。

走行・PTO関係



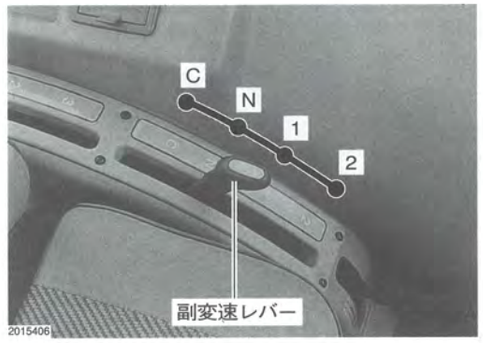


❶主変速レバー



走行速度6段の変速ができます。
クラッチペダルを踏まずに変速できます。

❷副変速レバー

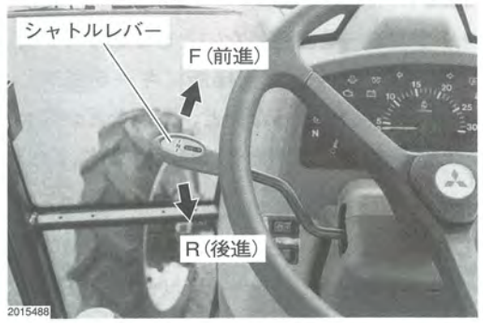


副変速レバーは3段階に変速でき、主変速との組合わせで、18段の変速ができます。クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで変速してください。

【取扱いの注意】

- **「C（クリープ速度）位置」は、使用と取扱いを誤ると故障の原因となります。55ページの「11.作業に適した速度の選びかた」の「取扱いの注意」を参照してください。**

❸シャトルレバー



「前進」と「後進」の切り替えに使用します。
クラッチペダルを踏まずに変速できます。

【取扱いの注意】

- **「前進」「後進」のシフト操作は、安全のためいったん「N」（中立）位置にして、機体が停止してから操作してください。**

❹PTO駆動スイッチ

⚠注意

- **PTOを「入」にするときはエンジンの回転を下げ、作業機の下や周囲に人がいないことを確認して行ってください。**
- **エンジンを始動するときや、移動走行するときは必ずPTOを「切」にしてください。**

守らないと傷害事故を起こすおそれがあります。



PTO作業するときに使用し、スイッチを押すと「切」になり、PTOが停止します。
また、スイッチを右に回すと上にアップして「入」になり、PTOクラッチが接続し、PTO変速レバーで選択した回転数でPTOが回転します。

❺Eターン・Eバック速度切換スイッチ

Eモードでの Eターン（旋回）速度、およびEバック（後進）速度が「切」、「速」、「遅」の3段階に選択でき、「切」位置では同じ速度で作業ができます。



❻独立・連動のPTO切換スイッチ

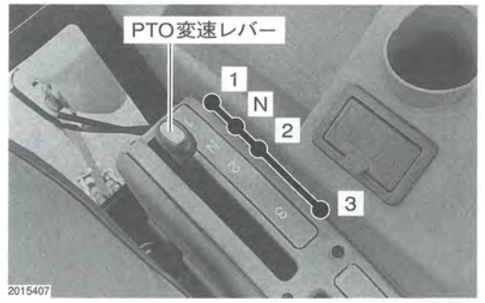


スイッチが「独立」位置のときは、PTO変速レバーで選択した回転数でクラッチペダルの踏み込みに関係なくPTOが回転します。
スイッチが「連動」位置のときは、クラッチペダルを踏み込むとPTOが停止します。

❼PTO変速レバー

⚠注意

- **作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。守らないと、作業機が壊れ事故をおこすおそれがあります。**



PTO軸（動力取り出し軸）の回転数を3段階に変速できます。変速するときは、

(1) PTO切換スイッチが「独立」位置のときは、PTOクラッチスイッチを「切」にして交換してください。
(2) PTO切換スイッチが「連動」位置のときは、クラッチペダルをいっぱい踏み込んで変速してください。

❽ブレーキペダル

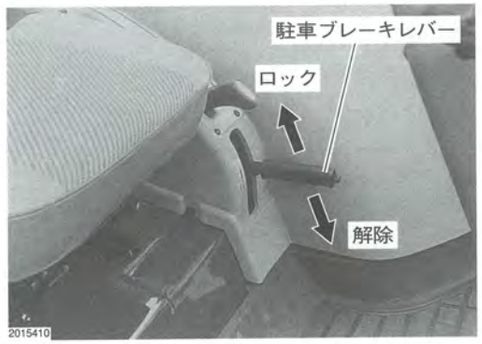
⚠警告

- **移動走行時には、かならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。さもないと、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。**



ブレーキペダルは左右独立しており、ほ場内で小回りする場合に旋回したい側のブレーキペダルを踏み込むと、踏み込んだ側の後輪にブレーキがかかり、小回りができます。

❾駐車ブレーキレバー



レバーを上に引き上げると駐車ブレーキが働きます。解除するときは、解除ボタンを押して下げます。

❿クラッチペダル



エンジンの動力を断続するのに使用します。

⓫前輪駆動スイッチ

⚠警告

- **ダイヤクイックターン（倍速）「入」の状態では路上走行や傾斜地走行をしないでください。守らないと転倒などの事故を起こすおそれがあります。**
- **副変速レバーが「C」「1」速で、スイッチを「倍速」位置に切り換えると、計器盤の表示ランプが点灯し、ダイヤクイックターン（倍速）が働きます。**
- **副変速レバーが「2」速位置では、安全のためにダイヤクイックターン（倍速）が働きません。**

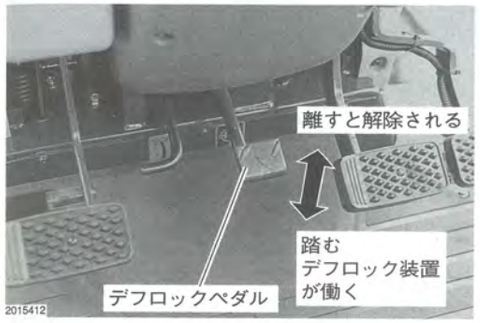


2輪駆動と4輪駆動及びダイヤクイックターン（倍速）の切り換えをするときに使用します。

⓬デフロックペダル

⚠警告

- **旋回時は、かならずデフロックを切って旋回してください。守らないと、思うように旋回ができずに、事故をおこすおそれがあります。**



後輪の片輪が空転した場合、両車輪を一体に駆動させる装置で、スリップ防止に役立ちます。

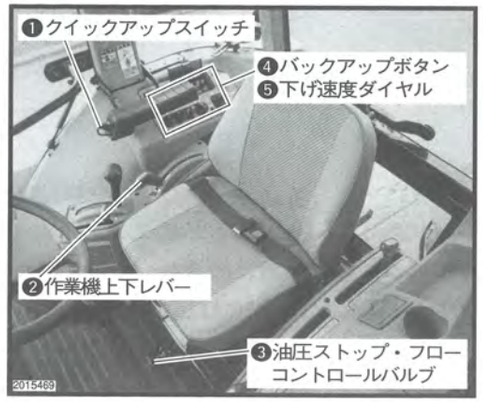
⓭変速モード切換スイッチ



路上走行や移動のときは、スイッチを「走行」位置にしてください。発進・変速時のショックが滑らかになります。作業時やトレーラけん引時にはスイッチを「作業」位置にしてください。発進・変速時のつながりが速くなります。

油圧関係

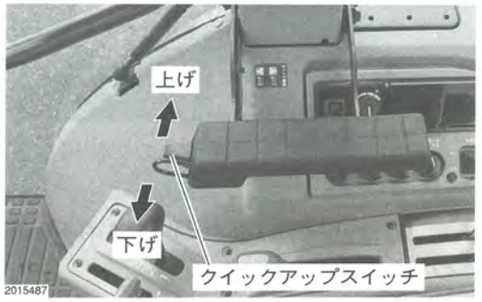
E-JACは、68ページの「E-JACについて」を参照してください。



❶クイックアップスイッチ（作業機昇降スイッチ）

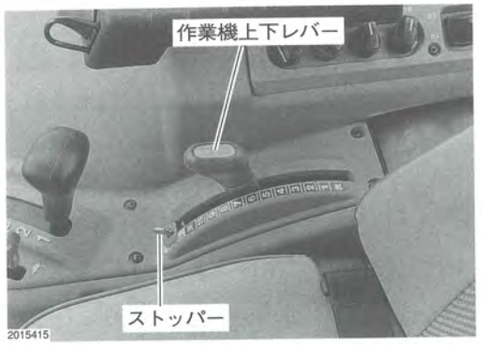
⚠警告

- **エンジンを停止しても、メインスイッチが「入」位置の場合は、クイックアップスイッチを「下げ」位置にすると下降します。**
- **人が作業機の下にいないことや、足を踏み込んだりしていないことを確認してから操作してください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。**



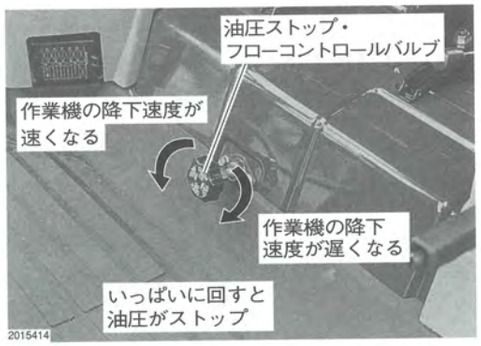
ワンタッチで作業機の上げ下げができます。作業機上下レバーで下げ位置を設定すると、設定位置まで作業機が降下して停止します。

❷作業機上下レバー



作業機を任意の位置に設定し、一定に保ちます。リフトランプが点灯していると、作業機上下レバーでは作業機は下がりません。
ストッパーは、作業機上下レバーを「**上昇**」位置で固定するとき、また作業機上下レバーの操作範囲を制限したいときに使用します。ストッパーは、路上走行時など作業機上下レバーを「**上昇**」位置で固定するときに使用します。

❸油圧ストップ･フローコントロールバルブ



作業機の下降速度を調節するのに使用します（フローコントロール機能）。
また、右へいっぱい回すと作業機昇降装置への油圧がストップします。

❹バックアップボタン



バックアップボタンを押して「**入**」（ランプ点灯）にし、シャトルレバーを「**R**」（後進）位置にすると自動的に作業機が上昇します。再度バックアップボタンを押して「**切**」（ランプ消灯）にすると、バックアップ装置は働きません。

❺下げ速度ダイヤル

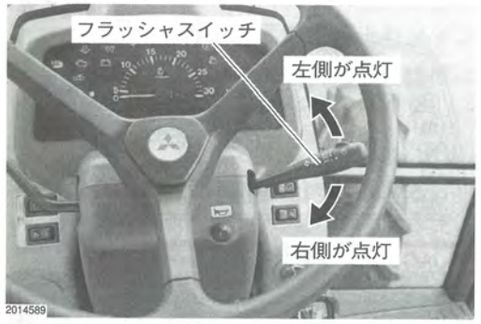


クイックアップスイッチで、下げ操作をしたときの下げ速度調節と、下げクッションの働くタイミングを調節します。

電装関係

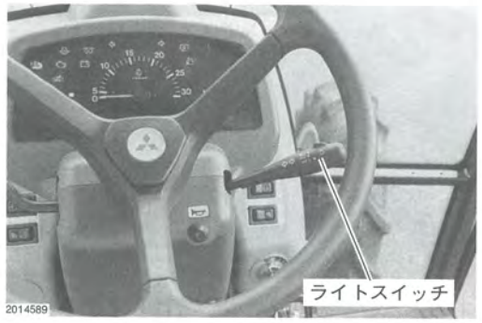


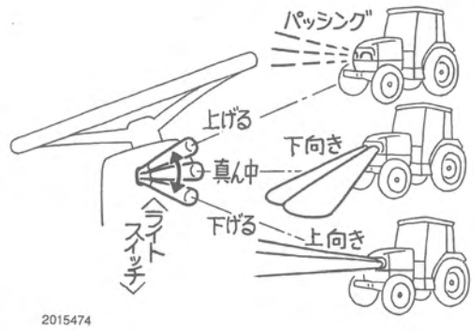
❶フラッシャスイッチ



メインスイッチを「**入**」位置にしてフラッシャスイッチを下に廻せば右側、上に廻せば左側のフラッシャランプが点めつします。点めつしないときは、113ページを参照してください。

❷ライトスイッチ





メインスイッチ「**入**」でライトスイッチを時計廻りに1段廻すと車幅灯・尾灯・計器盤が点灯し、2段廻すと前照灯（下向き）が点灯します。この状態でスイッチを上下すると「**パッシング**」「**下向き**」「**上向き**」になります。点灯しないときは113ページを参照してください。

❸ホーンボタン



メインスイッチを「**入**」位置にしてホーンボタンを押せば、ホーンが鳴ります。
鳴らないときは、113ページを参照してください。

テールランプ

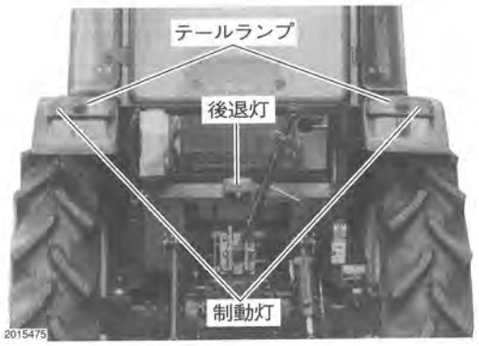
ライトスイッチと連動して点灯します。

制動灯

ブレーキペダルを踏み込むと点灯します。

後退灯

シャトルレバーをR（後進）にシフトすると、ランプが点灯します。



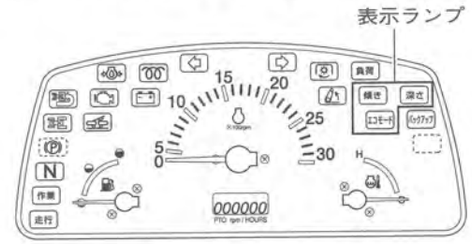
E-JACボタン

⚠警告

次のようなときはE-JACボタンを押して、表示ランプ「深さ」・「傾き」を消灯状態（手動）にしてください。

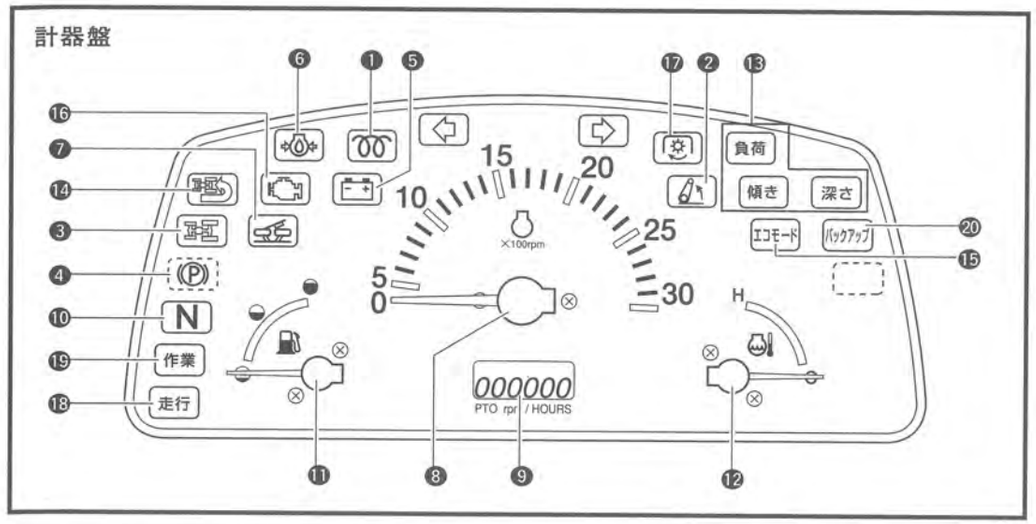
- **トラックへの積込み、積降し**
- **あぜ越え、ほ場への出入り**
- **果樹園、ハウス内など支柱や木に当たるとき**
- **一般道路走行時**
- **格納時**
- **作業機の着脱・調整時**

守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。



E-JACボタンを「**入**」にするとE（エコ）モードになり計器パネルのE（エコ）モードランプ（緑）が点灯します。（69ページ参照）

計器盤



❶サーモスタートパイロットランプ

外気温５℃付近よりメインスイッチを「**入**」の位置にすると点灯してヒーターに通電したことを示します。
ランプが消えてから（自動的に消える）「**始動**」位置に回し、エンジンを始動します。
サーモスタートランプ点灯時間は、冷却水温によりヒーターの通電時間が変わります。

〔**参考**〕冷却水温５℃以上… 1秒以下
冷却水温５℃以下… 3～15秒
冷却水温20℃以下… 23秒以上

❷リフトランプ

メインスイッチを「**入**」にすると点灯し、2秒後にランプは消えます。また、作業機上下レバーやクイックアップスイッチバックアップ機構で作業機が上がっているときにランプが点灯します。作業機を下げるとランプは消えます。

❸4WDランプ

前輪駆動スイッチを「**4駆**」位置に入れるとランプが点灯します。

❹駐車ブレーキパイロットランプ

駐車ブレーキレバーを引き上げるとランプが点灯します。

❺チャージパイロットランプ

メインスイッチ「**入**」の位置で、ランプが点灯しており、始動後エンジン回転が上がり充電し始めるとランプが消えます。ただし、エンジン回転が1000rpm以下では充電しません。充電するときは、1500rpm以上にしてください。

❻エンジン油圧パイロットランプ



メインスイッチを「入」にすると点灯し、エンジンを始動するとランプは消えます。エンジン回転中に、油圧ランプが点灯するときは、潤滑油回路に異常が発生したからです。すぐエンジンを停止して不具合箇所の原因を調べてください。

❼ブレーキ非連結ランプ



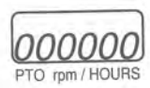
左右のブレーキが連結されていないときにランプが点灯します。

❽エンジン回転計



エンジン回転数を指針で示します。

❾積算時間計とPTO回転計



PTOが回転しているときはPTOの回転数を数字［P 0000］で表示し、PTOが回転していないときは、トラクターの使用時間を数字［H　000］で示します。

❿N（ニュートラル）ランプ



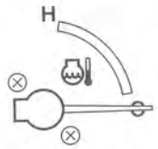
シャトルレバーが「N」（中立）位置で点灯し、「F」（前進）または「R」（後進）に変速するとランプが消えます。

⓫燃料計



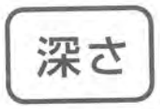
燃料の残量を指針で知らせます。針が減少位置を示した場合は早めに燃料を補給してください。

⓬水温計



運転中の冷却水温を指針で示します。針が赤色区域位置を示した場合は、作業を中断して点検してください。

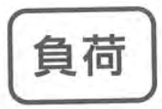
⓭表示ランプ



作業切換ボタンを押すと、「深さ」ランプがパネルの表示ランプに点灯します。このランプが表示されたら、PAC使用時にロータリの耕うん深さを一定に保ちます。



作業切換ボタンを押すと、「傾き」ランプがパネルの表示ランプに点灯します。このランプが表示されたら、トラクターの傾きにかかわらず、作業機を地面と一定の角度に保つことができます。また、作業機を最上げ付近に上げたときには、作業機は本機と平行になります。



作業切換ボタンを押すと、「負荷」ランプがパネルの表示ランプに点灯します。このランプが表示されたら、ロータリの耕うん深さを制御して、エンジン負荷を一定に保ちます。

⓮ダイヤクイックターン（倍速）ランプ



副変速レバーが「C」「1」位置のとき、前輪駆動スイッチを「倍速」位置にすると、計器盤のランプが点灯し、ダイヤクイックターンが作動します。副変速レバーが「2」位置では安全のためにダイヤクイックターンが作動しないので、ランプは点灯しません。

⓯E（エコ）モードランプ



E-JACボタンを「入」にすると、「E（エコ）モード」ランプがパネルの表示ランプに点灯します。このランプが表示されたら、

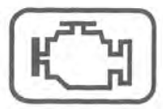
- **Eガバナーの働きで、高速耕うんに適したエンジン出力性能になります。**

Eターン・Eバック切換スイッチが「速」又は「遅」位置のときは、

- **クイックアップスイッチを「上」にするとEガバナーの働きでエンジン回転が下がり減速し、旋回に適した速度となります。クイックアップスイッチを「下」にするとエンジン回転が元に戻ります。**
- **シャトルレバーを「R」（後進）位置にすると、Eガバナーの働きでエンジンの回転が下がり減速し、後進に適した速度となります。**

E-JACボタンを「切」にすると、計器パネルのEモードランプが消灯し、通常のエンジン出力性能となりますが、Eターン・Eバックの機能は、作動します。

⓰トラブルランプ



Eガバナーシステムに故障があったときにパネルの「トラブル」ランプが点滅し、異常を知らせます。システムに異常がないときは消灯しています。このランプが点滅したら、機械をお買い求めになった販売店または農協にお知らせください。

⓱PTOランプ



PTOクラッチスイッチが「入」の状態でランプが点灯します。

エンジン始動時にこのランプが点灯しているときは始動できませんので、PTOクラッチスイッチを「切」にしてエンジンを始動してください。

⓲走行ランプ



変速モード切換スイッチを「走行」位置にすると、計器盤のランプが点灯します。

⓳作業ランプ



変速モード切換スイッチを「作業」位置にすると、計器盤のランプが点灯します。

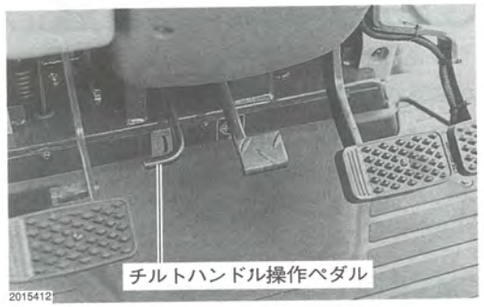
⓴バックアップスイッチ



バックアップスイッチを「入」にすると、計器盤のランプが点灯します。

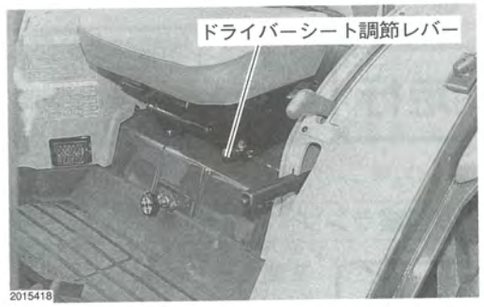
その他

チルトハンドル操作ペダル



ステアリングハンドルの角度を変えるのに使用します。
チルトハンドル操作ペダルを踏み込み、ステアリングハンドルの角度を変えて、ペダルを戻すと固定されます。
※調節後は、ステアリングハンドルが確実に固定されているか確認してください。

ドライバーシート調節レバー



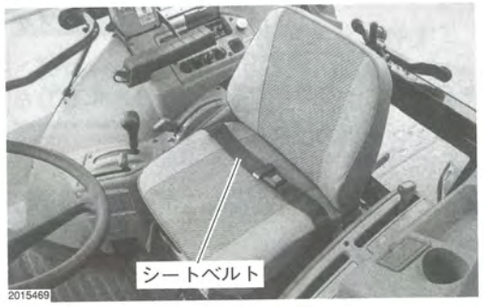
ドライバーシートの前後位置が5段階に調節できます。運転者の体格に合わせて調節してください。

シートベルト

⚠警告

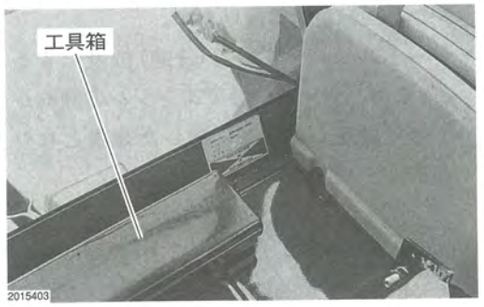
- **トラクターを運転するときは、必ずシートベルトを着用してください。**
  守らないと、転落、転倒事故のとき死亡または重傷のおそれがあります。

ドライバーシートを正しい運転姿勢位置にし、上体を起こして座ります。腰骨にかかる位置にベルトがねじれないようタングプレートをバックルの中へ「カチリ」と音がするまで差し込みます。
外すときは、バックルのPRESSボタンを押します。



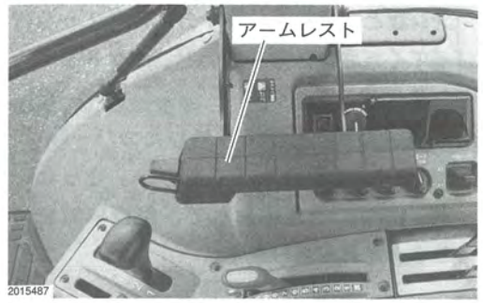
工具箱

シート後方にあります。



アームレスト

ワンタッチ昇降スイッチが一体化されたひじ掛けで、使用するときは倒して使ってください。
使用しないときやスイッチの切り換えを行うときは持ち上げて使用してください。

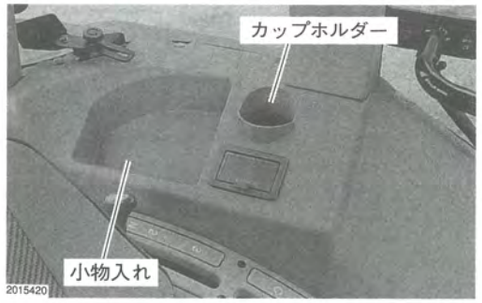


カップホルダー

缶ジュースなどが収納できます。

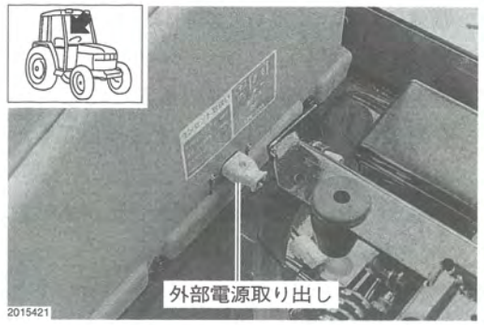
小物入れ

小物類が入れられます。



外部電源取り出し

12V20A以下の外部電源を取り出すことができます。キー連動方式でヒューズも装備しております。
12V20Aを越える外部電源を取り出す場合はバッテリから直に電源を取り出しますのでキー連動しません。また、ヒューズも作業機側に必ず設けてください。



1.作業前の点検

⚠危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油はしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- 燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので、かならず点検してください。
  守らないと、火災をおこすおそれがあります。

⚠警告

- 点検整備は、交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で車止めをした上で行ってください。守らないと、機械が転倒するなど事故をおこすおそれがあります。
- 作業機の下へ入るときは、油圧ストップバルブをいっぱいに締め込んで油圧をストップさせてください。守らないと、何らかの原因で、作業機が急に下がったときに、傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- 点検・整備の修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行ってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。
- 点検・整備などで取り外したカバー類は、かならず取り付けてください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

安全で快適な作業を行うには、本機を使用する人が一日一回、作業前の点検を行うようにしてください。異常箇所は直ちに整備し、作業終了時も異常がないかチェックしてください。
点検は次の順序で行ってください。

❶前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、作業に支障がないか点検します。

❷トラクターのまわりを回ってみて

- 各部の変形・損傷・汚れ
- タイヤの空気圧、摩耗度合、損傷…95ページ


2010567

- 車体各部の損傷、ボルトのゆるみ
- 車輪取付けボルト及びリムとディスクの取付けボルトのゆるみ…60ページ
- 燃料の量と燃料もれ、燃料パイプの損傷…78・89ページ


2015455

❸ボンネットを開けてみて

- エンジンオイルの量と汚れ、油もれ…83ページ


2010568

- 冷却水の量と水もれ、ホースの損傷…86・89ページ


2010549

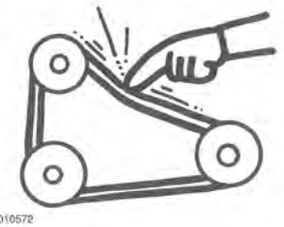
- バッテリ液の量…89ページ


2010570

- エアクリーナーの汚れ…87・88ページ


2010571

- 冷却ファンベルトの張りと損傷…93ページ


2010572

- ラジエータグリルやエンジンルーム内のホコリやゴミ…87ページ


2015456

- 配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ…90ページ


2010562

❹作業機側へ回ってみて

- ドライブシャフトロックピンのPTO軸への挿入状態
- 各部のRピンの差し込み状態



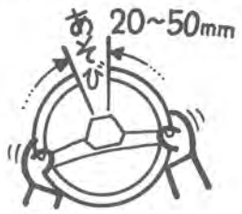
詳しくは作業機の取扱説明書をご覧ください。

❺運転席に座ってみて

- ブレーキの作動具合と遊び量…91ページ



- ハンドルの遊び量…92ページ



- クラッチペダルの作動具合と遊び量…92ページ



❻エンジンを始動してみて

- エンジン始動後の異音



- 排気ガスの色…95ページ



- ランプ・メータ類の作動…37～41ページ



2.ならし運転(最初の50時間)について

新車は使用時間50時間までの取り扱いが大変重要です。
トラクターの寿命、性能に大きく影響します。
この期間中は、次の点に注意して、正しく取り扱ってください。

①急なスタート、急ブレーキは慎んでください。
②必要以上のスピードや負荷をかけないでください。
③運転はエンジンが十分に暖まってから行ってください。
④悪路や傾斜地では、速度を落としてゆっくり走行してください。
⑤使い始めて最初の50時間目には、81ページの表に従い各部の点検、オイルの交換等をしてください。

3.エンジンの始動・停止のしかた

⚠警告

- **エンジン始動時は、かならず運転席に座ってレバーの位置と周囲の安全を確認してください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。**
- **閉めきった室内ではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故をおこすおそれがあります。**

⚠注意

- **機械を使う前と後には、かならず点検・整備をしてください。特に、クラッチ・ブレーキ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備をしてください。守らないと、傷害事故をおこしたり、機械の故障をまねくおそれがあります。**
- **暖気運転中は駐車ブレーキをかけてください。守らないと、何らかの原因でトラクターが走りだし、事故をおこすおそれがあります。**

始動のしかた

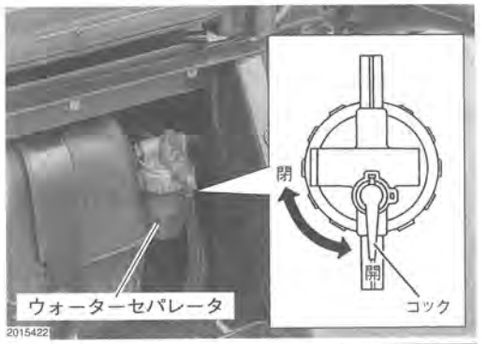
⚠注意

- **作業機上下レバーが「下」位置、でない場合、また、リフトランプが点灯しているときにはエンジンを始動しないでください。守らないと、作業機が急に上がって、傷害事故をおこすおそれがあります。**

【取扱いの注意】

- **セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。**
  (10秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って1分以上休止してから、手順⑥の操作を繰返してください。)
- **エンジン回転中は、絶対にメインスイッチを「始動」位置にしないでください。**

①燃料こし器とウォーターセパレータのコックを「O」(開)の位置にします。



2015422



②副変速レバー・シャトルレバーを「N」(中立)位置にし、PTOクラッチスイッチを「切」位置にします。

③作業機上下レバーを「下」位置にし、メインスイッチを「入」位置にして、計器パネルのリフトランプが消えて作業機が降りていることを確認してください。



2015489

※リフトランプが点灯しているときは、クイックアップスイッチを「下」側に操作してください。作業機は降下し、ランプは消灯します。

④アクセルレバーを「最高回転」位置にします。

⑤サーモスタートランプが消灯してからクラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、メインスイッチを「始動」位置にします。

⑥エンジンが始動したら、すみやかにメインスイッチから手を離してください。



2015461

※エンジンが暖まっているときは、サーモスタートランプは瞬時に消えます。

※安全スイッチの働きによりクラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとセルモータが回りませんのでエンジンの始動ができません。

⑦アクセルレバーでエンジンを1500回転ぐらいに下げ、約5分間は負荷をかけずに暖機運転を行ってください。

エンジン回転計



【取扱いの注意】

- **寒冷時は油圧系の性能を十分に発揮するために、下表を目安に暖機運転を長めに行ってください。**

気　温	暖機運転時間
0℃～-10℃	10分以上
-10℃～-20℃	20分以上
-20℃以下	30分以上

停止のしかた

①アクセルレバーを「低速回転」位置にして、メインスイッチを「切」位置にするとエンジンが停止します。



2015462

4.作業機を上下させるには

作業機を上下させるには、作業機上下レバーまたは、クイックアップスイッチを使用します。(ほ場外では作業機上下レバーにて上下してください。) クイックアップスイッチを「上」位置に操作すると作業機はあがり、リフトランプが点灯します。「下」位置に操作すると作業機は作業機上下レバーで決められた位置まで下がり、リフトランプが消えます。



2015413



2015490

【取扱いの注意】

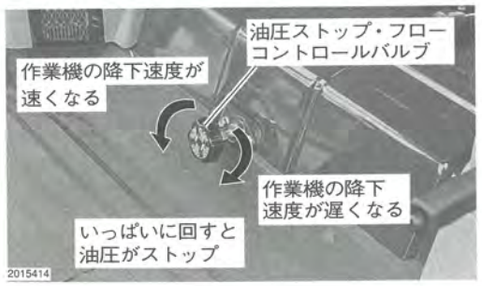
- 作業機上下レバーが最上昇位置にあるときは、クイックアップスイッチを操作しても作業機は下がりません。このとき作業機が上がっていてもリフトランプは点灯していません。作業機上下レバーを「下降」方向に操作し、作業機を下げてください。
- クイックアップスイッチ・バックアップ装置で作業機を上昇させたあと、作業機を下げるには、クイックアップスイッチを「下」位置にするか、作業機上下レバーを一度、最上昇位置に操作した後「下」方向に操作してください。

5.作業機の降下速度の調節のしかた

⚠警告

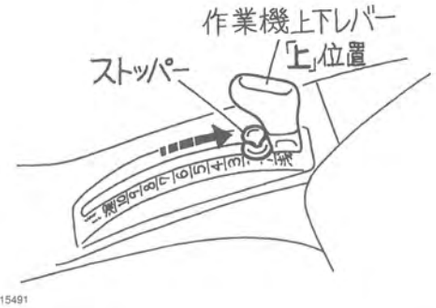
- 作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。守らないと、何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故をおこすおそれがあります。

作業機の降下速度を調節する場合は、油圧ストップ・フローコントロールバルブを「左」方向に回すと作業機は速く降り、逆に「右」方向に回すと作業機の降下速度は遅くなります。「右」方向にいっぱいまで回すと油圧がストップされ、作業機は下がりません。



【取扱いの注意】

- 路上走行するときは、油圧ストップ・フローコントロールバルブは開いたままで、作業機上下レバーを「上」位置にして、ストッパーでロックして走行してください。
- フローコントロールバルブを一杯に締め込んだまま、作業機上下レバーを操作しないでください。守らないと、油圧部品の破損をひきおこします。



6.バックアップ装置の使いかた

⚠警告

次のようなときは、バックアップ装置は使用しないでください。

- トラックへの積込み、積降し。
- あぜ越え、ほ場への出入り。
- 果樹園、ハウス内など支柱や木に当たるとき。
- 一般道路走行時。
- 格納時。
- 作業機の着脱・調整時。

守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。

バックアップ装置を使用しますと、枕地や回り耕などでバックするときに能率良く作業ができます。

バックアップボタンを押してバックアップが「入」（ランプ点灯）の状態のとき、シャトルレバーを「R」（後進）に入れると作業機が自動的にあがりブザーが鳴ります。作業機を降ろすときは、クイックアップスイッチを「下」位置にします。

ゆっくり降ろしたい場合は、作業機上下レバーを一度最上昇位置に操作した後「下」方向に操作してください。





バックアップ装置を使用しないときは、バックアップスイッチを再度押して「切」（ランプ消灯）にしてください。

7.発進・停止・駐車のしかた

⚠警告

- 発進するときは、周囲の人に合図して周囲の安全を確認した上で、急発進しないようにゆっくり発進してください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 移動走行時には、かならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎきし、急旋回したり、転倒したりするおそれがあります。
- トラクターからはなれるときには、平坦で安定した場所に置き、かならず駐車ブレーキをかけ、シャトルレバーと副変速レバーを「N」(中立) 位置にし、作業機を接地させてエンジンを止め、車止めをしてください。守らないと、トラクターが動きだし、事故をおこすおそれがあります。

発進のしかた

①ブレーキペダルが連結金具で、左右連結されていることを確認します。

②アクセルレバーでエンジン回転を約1500回転ぐらいにします。

③作業機上下レバーを「上げ」方向に操作して、作業機を最高位置に上げます。

④クラッチペダルを踏み込んで、副変速レバー・主変速レバーを希望の位置に確実に入れます。速度は55ページを参照してください。

⑤シャトルレバーを「F」位置または「R」位置に入れます。



⑥クラッチペダルをゆっくり離しますと、トラクターが動き始めます。

【取扱いの注意】

- **走行中・作業中は、絶対にクラッチペダルの上に足を乗せないようにしてください。守らないと、事故やクラッチの早期摩耗をひきおこすおそれがあります。**
- **主変速レバー・シャトルレバーはクラッチを踏まずに操作できます。副変速は停止して、クラッチを踏んでから変速してください。**

停止・駐車のしかた

①アクセルレバーを低速側に戻して、スピードを落とします。クラッチペダルとブレーキペダルを踏み込んで停止し、副変速レバー・シャトルレバーおよびPTOクラッチスイッチを「切」位置にします。

②左右のブレーキが連結金具で連結されていることを確認し、駐車ブレーキロックレバーを引いて、ブレーキをロックします。

③作業機を取り付けている場合は、クイックアップスイッチを「下」に操作し、作業機上下レバーを「深」方向に操作して作業機を降ろしてください。



④メインスイッチキーを「切」にして、エンジンを停止します。

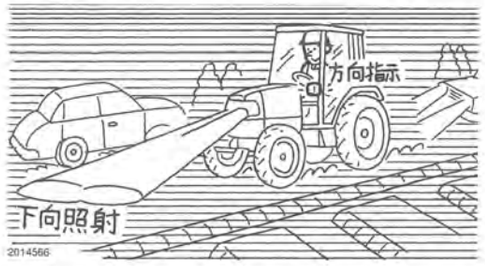
8.道路走行のしかた

⚠警告

- **路上走行時やあぜ越え時にはかならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。**
- **公道を走行するときは、道路交通法等関係法規を厳守してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**
- **このトラクターの乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**
- **公道走行するときは、ロータリーなどの作業機を取り外してください。守らないと、道路交通法違反で、事故をおこすおそれがあります。**
- **路上走行時は、バックアップスイッチを「切」にし、前輪駆動スイッチを「切」にしてください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。**
- **E-JACボタンを押して、表示ランプ「深さ」・「傾き」・「E(エコ)モード」を消灯状態(手動)にしてください。**

⚠注意

- **PTOクラッチスイッチを「切」位置、PTO変速レバーを「N」(中立)位置にして、必ず左右のブレーキペダルを連結してください。**
- **走行スピードはフートアクセルペダルで調節してください。**
- **進路変更するときは、フラッシャスイッチによって進行方向を他の車に知らさなければなりません。**
- **バックミラーで後続車に注意し、追越しの妨害にならないようにしてください。**
- **夜間走行時ライトを点灯し、対向車とすれ違うときは、ライトスイッチを下方照射とし、対向車の妨害にならないようにしてください。**



- **狭い農道や傾斜地、路肩に草が生い茂っている所は、路肩に十分注意して、スピードを落して走行してください。**
- **道路走行時は、作業機上下レバーを「上」位置にし、上げ規制ストッパーを図の位置にセットしてください。**



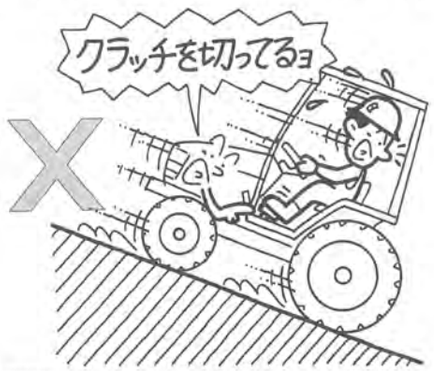
守らないと、事故をおこすおそれがあります。

9.坂道での運転のしかた

⚠警告

- あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道の上では、変速をしないでください。
- 坂道ではシャトルレバー・副変速レバーを「N」(中立) 位置にしないでください。
- 坂道では駐車しないでください。守らないと、トラクターが坂をすべり落ちて、事故をおこすおそれがあります。
- 坂道では、スピードに十分注意して、ゆっくりと走行してください。急な下り坂ではエンジンブレーキを活用してください。
- 坂の途中ではクラッチペダルを踏まないでください。トラクターがすべり落ちて大変危険です。
- 上り坂で発進する場合は、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落してゆっくりと発進してください。急発進すると、前輪がはね上がり大変危険です。
- 変速は坂を登りつめてから、希望する変速位置に入れ直してください。坂の途中で停車する場合は、駐車ブレーキでロックしてください。

守らないと、事故をおこすおそれがあります。



2015431

10.ほ場への出入りのしかた

⚠警告

- かならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎきし、転倒するおそれがあります。
- ほ場への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときは、十分強度のあるあゆみ板を使用し、作業機を下げ重心を低くしてください。
- 急な傾斜を登る場合は、後進で、降りる場合は前進で行ってください。
- バックアップスイッチを「切」にし、前輪駆動スイッチを「4駆」の位置にしてください。

守らないと、バランスをくずし、転倒・転落のおそれがあります。

ほ場への出入りは、ほ場に対して、直角に出入りしてください。登り始めは、作業機を低くして重心を下げ、トラクターの前・後輪が完全にあがりきってから作業機を上げてください。



2015445

11.作業に適した速度の選びかた

主変速レバーと副変速レバーとシャトルレバーの組合せにより、前進18段・後進18段の速度が選べます。下表を参考にして、作業に合った速度を選んでください。

作業速度段の選び方

	変速段	主変速レバー	副変速レバー	MT501	MT551 MT601
				km/h	km/h
前進	1	1	C	0.22	0.22
	2	2		0.30	0.31
	3	3		0.35	0.37
	4	4		0.50	0.52
	5	5		0.60	0.63
	6	6		0.85	0.89
	7	1	1	1.62	1.68
	8	2		2.29	2.39
	9	3		2.69	2.80
	10	4		3.81	3.96
	11	5		4.60	4.79
	12	6		6.51	6.79
	13	1	2	7.35	7.66
	14	2		10.41	10.85
	15	3		12.21	12.73
	16	4		17.30	18.03
	17	5		20.90	21.78
	18	6		29.62	30.86

※後進速度は前進速度とほぼ同じです。

【取扱いの注意】

〈副変速レバー「C」位置(クリープ変速)の使用について〉

クリープ速度は使用と取扱いを誤ると故障の原因になります。次のことに注意して使用してください。

(1) 使用できる作業

- ロータリーでの深耕、細土耕うん作業
- ロータリー耕うんで、ほ場が硬く標準速度で耕うんできないとき
- プランタによる移植作業
- 農業用トレンチャによる作業
- トラックへの積降し

(2) 使用できない作業

(故障の原因となります)

- 湿田での脱出時
- 重けん引作業
- フロントローダ作業
- フロントブレード作業
- 土木作業

(3) 発進・停止時について

クリープ速度では車軸の回転が大変強くなるので、ブレーキペダルだけを強く踏んでもブレーキはききません。また、故障の原因となりますので、必ず次のことを守ってください。

- 発進は駐車ブレーキを必ず外してから行ってください。
- 停止はクラッチペタルを踏んで、クラッチを切ってからブレーキをかけてください.
- 高速レンジでの発進は主変速「1」から発進するとスムーズな発進ができます。
  パワーシフトのメリットを生かして「1」→「2」・「3」・「4」・「5」→「6」とシフトして最高速度が得られます。

12.ほ場での旋回のしかた

⚠警告

- **かならず、デフロックを切って旋回してください。守らないと、思うように旋回ができずに事故をおこすおそれがあります**

旋回するときは、エンジンの回転を落とし、ゆっくりなめらかに旋回してください。

①作業機を上げます。

②左右ブレーキペダルを連結している連結金具を外します。

③ハンドルを切ると同時に、旋回しようとする側のブレーキペダルを踏み込むと小回りができます。



2015467

13. ダイヤクイックターン(前輪増速)運転のしかた

⚠警告

- **「ダイヤクイックターン(倍速)」位置の状態で、路上走行・傾斜地作業やローダ作業に使用しないでください。**
- **ほ場から出る前には、必ず切換スイッチを「ダイヤクイックターン(倍速)」以外の位置にしてください。**
- **フロントローダや前輪に重荷重がかかる作業には使用しないでください。**

守らないと転倒などの事故を起こすおそれがあります。



2015493

停車中・走行中でも、クラッチペダルを踏まずに、切換スイッチにより**「2駆」「4駆」「ダイヤクイックターン」**が選択できます。

「ダイヤクイックターン」をほ場内で使うとスムーズに小回りができ、**「旋回跡が荒れない」「旋回径が小さい」「旋回時間が短い」**などの特長を生かせます。

副変速レバーが**「C」「1」**速で、前輪駆動スイッチを**「ダイヤクイックターン(倍速)」**位置にすると、計器盤のランプが点灯し、クイックターンが働きます。

【取扱いの注意】

安全を確保するために、次のような機構が組込まれています。

1.前輪駆動スイッチが「ダイヤクイックターン(倍速)」の状態で、副変速レバーを「2速」に入れるとダイヤクイックターンが作動しなくなります。

2.副変速レバーが「2速」の状態で、前輪駆動スイッチを「ダイヤクイックターン(倍速)」位置にしても、ダイヤクイックターンは働きません。

3.フロントローダや前輪に重荷重がかかる作業には使用しないでください。

通常、ダイヤクイックターンはハンドルをいっぱいに切ると働き、直進状態にハンドルを戻すと4輪駆動の状態になります。

14. ロータリー耕うんのしかた

①前輪タイヤ、後輪タイヤの輪距は、標準状態にしてください。

②作業条件により、車速およびPTO回転速度を決めて耕うんを始めます。

③耕うん方法は数種類ありますが、ほ場の条件によって適切な耕法を選んでください。一般的には、ロータリー耕うんは隣接耕が標準です。

④いずれの耕法による場合でも、トラクターの旋回ができるだけの枕地と同じ幅を、ほ場の両側に残して内側から作業を始めます。(目安として耕作地の周囲を3行程弱残します)

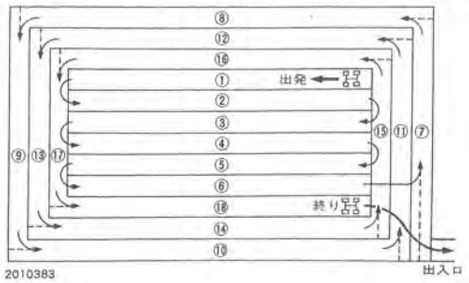
⑤耕うん時は、前・後輪タイヤがすでに耕うんしたところに落ちないように、気をつけながら運転します。

⑥サイドドライブロータリーは、右サイドフレーム側があぜぎわによるようにして、耕うんすると残耕が少なくなります。

〈隣接耕うんの順序〉

- 一般的なロータリー耕うん方法です。
- 図のような順序をとるのは、一度耕うんした所を後輪タイヤで踏まないための、最善の方法です。
- したがって出発点は、トラクターが最後に外へ出る場所によって決まります。

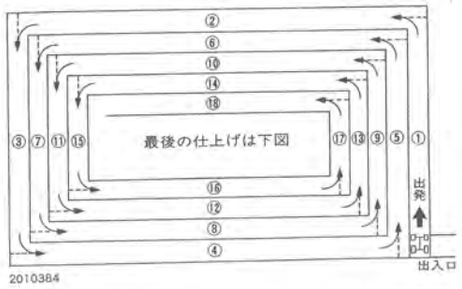
◀―― 進行方向　◀----- いったんバック



2010383

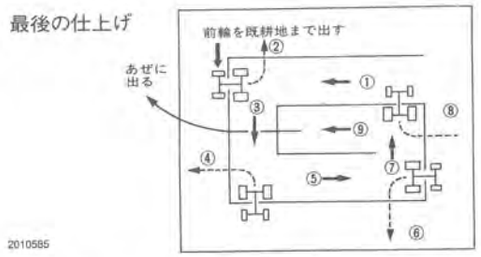
〈回り耕うんの順序〉

- 弱湿田または湿田地で、小回りのむずかしい場合に用いる方法です。
- 耕うん順序は外周部から仕上げていきます。
- トラクターが最後に出る場所は、あぜに近い所から出てください。



2010384

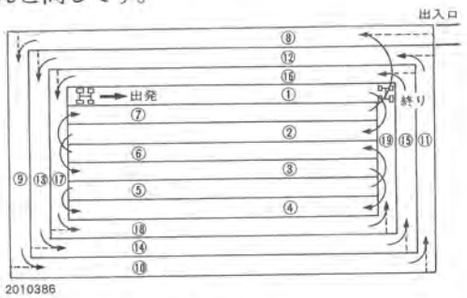
最後の仕上げ



2010585

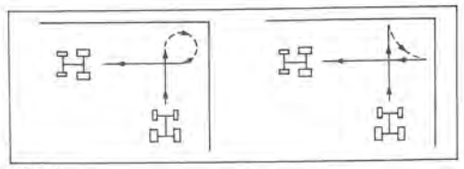
〈―うね置き耕うんの手順〉

一うね置き耕うんは、小回りのむずかしい場合に用いる方法です。その他は隣接耕うんと同じです。



2010386

〈トラクターの方向転換〉


2010387

15. デフロックの使いかた

⚠警告

- **かならずデフロックを切って旋回してください。守らないと、思うように旋回できずに事故をおこすおそれがあります。**

⚠注意

- **路上走行中は、絶対にデフロックを使用しないでください。守らないと、走行が不安定になり事故をおこすおそれがあります。**

デフロックペダルを踏むと、差動装置がロックされ、左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。ペダルから足を離すとロックが自動的に解除されます。
湿田地やぬかるみからの脱出など、片車輪がスリップして走行がしにくいときに使用すると効果があります。



2015412

【取扱いの注意】

- デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてから行ってください。
- 抜けにくいときは、クラッチを切るか、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
- クリープ（超低速）での使用は、絶対さけてください。

16. トラックへの積込み・積降しのしかた

⚠危険

- **トラックへの積込み・積降しは、あゆみ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えたり停止するために、クラッチの操作を絶対にしないでください。守らないと、転落などの事故をおこすおそれがあります。**

⚠警告

- **トラックへの積込み・積降しは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップしないものを選び、あゆみ板がはずれないように、フックをトラックの荷台にしっかりかけてください。**
- **トラックへの積込みは後進で、積降しは前進で行ってください。**
- **トラックにのせて移動するときは、強度の十分あるロープでトラックにトラクターを固定してください。**

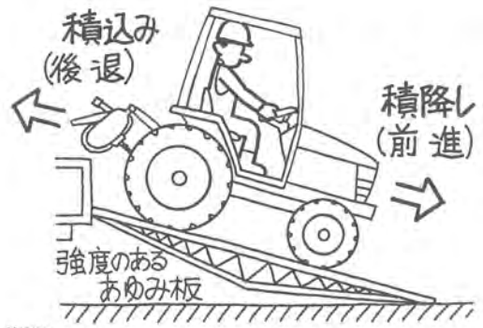
守らないと、トラクターが転落するなど、事故をおこすおそれがあります。

〈積込み操作要領〉

①十分な強度と長さのあゆみ板を使用します。
②ブレーキペダルは必ず連結してください。
③バックアップ解除スイッチは「切」の位置にしてください。
④変速は低速位置で、シャトルレバーを「R」位置（積降し時は「F」位置）でエンジン回転を低速にして積込んでください。
⑤前輪駆動スイッチを「4駆」にし、落輪しないようにハンドルは慎重に操作してください。
⑥万一積込み途中でエンストしたときは、すぐにブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、あらためてエンジンを始動してください。
⑦積込みが終了したら、キースイッチを外して駐車ブレーキをかけ、ロープで本機を確実に固定してください。

〈積降し操作要領〉

①積込みと逆の手順で行ってください。



2015432

17. 車輪幅(輪距)の調節のしかた

⚠警告

- **車輪幅を標準幅より狭くするとバランスを崩しやすくなります。傾斜地での走行や、ほ場への出入りは走行速度を十分におとし、注意して行ってください。また、傾斜地作業やけん引作業には、車輪幅を広げて使用してください。**
  守らないと、バランスを崩して転倒するなど、傷害事故の原因になります。

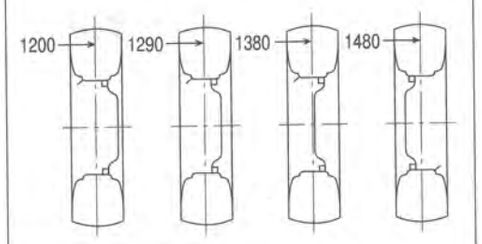
前輪輪距調節

左右のタイヤとリムの組み換えで調節を行います。

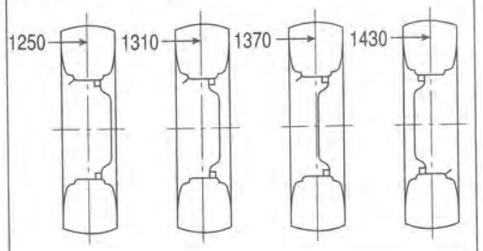
前輪標準トレッド	8－18	1290mm
	8.3－20	1310mm

- **前輪ハブボルトの締付トルク**
  177～196N·m（18～20kg-m）
- **リム・ディスク取付ボルトの締付トルク**
  216～235N·m（22～24kg-m）

8－18の場合



8.3－20の場合

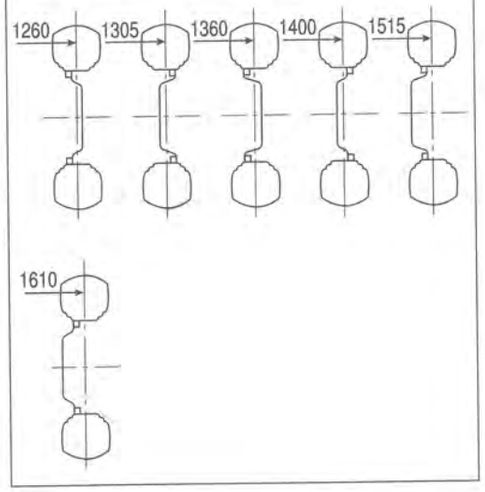


後輪輪距調節

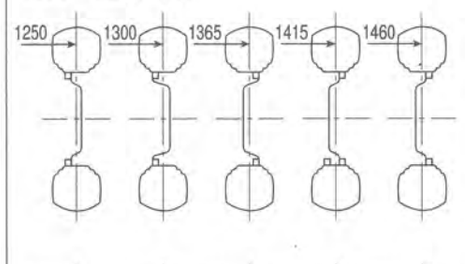
駐車ブレーキを掛けて前輪に歯止めをした後、ジャッキを使って車体を上げ、ファイナルケースに支持台をかませて後輪を浮かせてください。

- **前輪ハブボルトの締付トルク**
  177～196N·m（18～20kg-m）
- **リム・ディスク取付ボルトの締付トルク**
  167～206N·m（22～24kg-m）

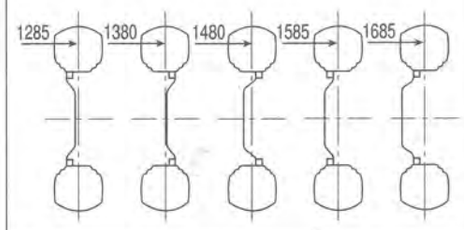
12.4－28・13.6－28の場合

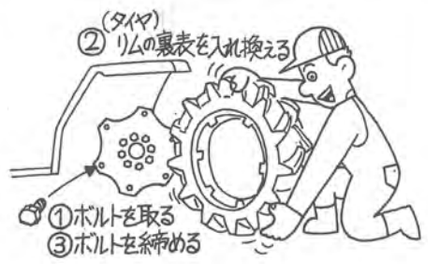


12.4－32の場合



14.9－28の場合





1013922C

18. サブコントロールバルブ(2連)の使いかた

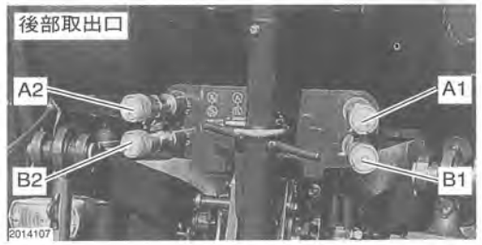
⚠注意

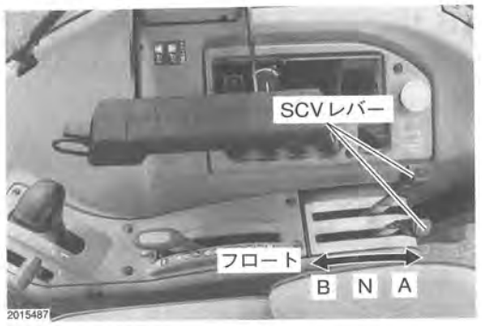
- **油圧取出口のプラグを外したり、配管の取付け、取外しを行なうときは、かならずエンジンを停止してください。守らないと、高圧オイルにより傷害事故を起こすおそれがあります。**

単動・複動・フロートが兼用のサブコントロールです。

- セット圧　170kg／cm²
- 油流量　31ℓ／分

油圧取出口は、トラクター後部にあります。
後部取出口は、クイックカプラーです。





複動の場合

SCVレバーを操作します。

A…後方へ倒す：シリンダが縮みます。

B…前方へ倒す：シリンダが伸びます。

F…さらに前方へ倒す：フロートの状態になります。

単動の場合

SCVレバーを操作します。

A…後方へ倒す：シリンダが伸びます。

F…一番前へ倒す：作業機等の重さでシリンダが縮みます。

作業機の装着

油圧配管は、必ずSCV1系統と、SCV2系統に分けて接続してください。

後部取出し口A1、B1と前部取出し口A1B1(または、後部A2B2、前部A2B2)に同時に作業機を接続して、操作することはできません。

※油圧作業機の詳しい取り付けかたは、各作業機の取扱説明書を参照してください。

【取扱いの注意】

- **取出ポートのネジをゆるめたり、縮めたりするときは、取出口の二面幅(27㎜)をスパナで固定してください。**

19.油圧外部の取り出しかた

⚠注意

- **油圧取出口のプラグを外したり、配管の取り付け、取り外しを行うときは、かならずエンジンを停止してください。守らないと、高圧オイルにより傷害事故を起こすおそれがあります。**

単動シリンダ…ダンプトレーラなど

ダンプトレーラなどシリンダーの場合、シリンダヘッド油圧取出口のプラグを外し、作業機側のホースを取り付けます。

〈操作要領〉

①作業機上下レバーを「最下げ」位置にします。

②油圧ストップ・フローコントロールバルブを「閉」方向にいっぱいに締めます。

③作業機上下レバーを操作して、作業機を動かします。



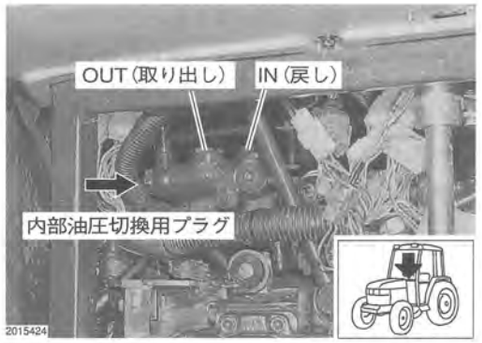


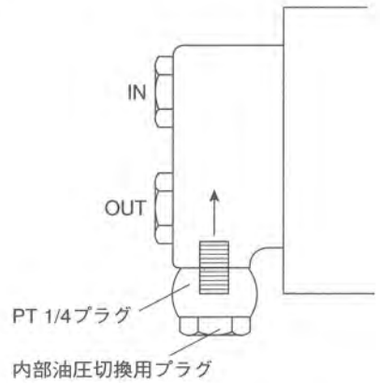
複動油圧取出口…フロントローダなど

①トラクターの右ステップ下部(燃料タンク内側)にある外部油圧取出口を、作業機のバルブと配管してください。(内部油圧切換用プラグを外し、PT1/4プラグを組み込みます。)

上側……OUT
(取り出し、PF1/2″Oリングポート)

下側……IN
(戻し、PF1/2″Oリングポート)

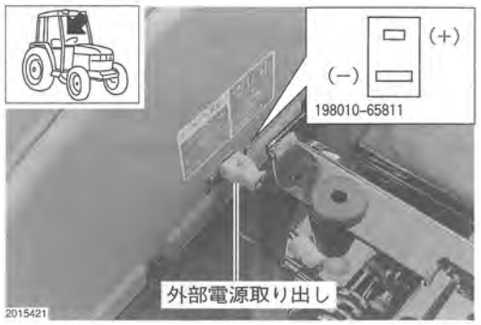




※作業要領および油圧作業機の詳しい取り付けかたは、各作業機の取扱説明書を参照してください。

20.外部電源・充電コンセントについて

作業機への外部電源取出しや、バッテリの充電に使用します。充電の場合は、充電機の出力側を差し込みます。



【取扱いの注意】

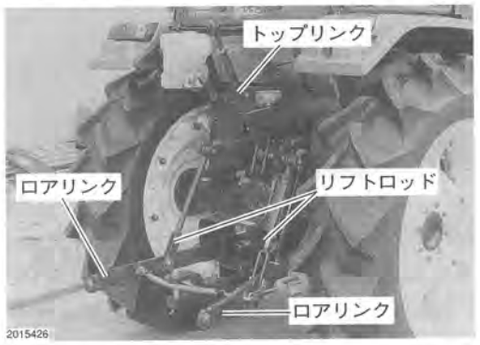
- **このコンセントに100Vの家庭用電流(交流)、および24Vのバッテリ電源を直接さし込まないでください。**
  守らないと、電装品の破損を引きおこします。
- **端子のプラス、マイナスを間違えたり、過負荷電流で使用しますと(最大：12V15A)ヒューズが切れます。ヒューズの交換は、ヒューズボックス内で行います。**
  (94ページ参照)

21. 3点リンクについて

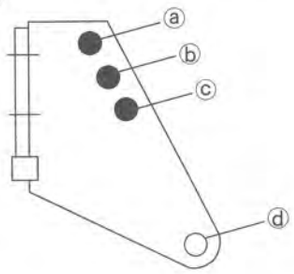
このトラクターの3点リンクはJIS 1型です。

トップリンク

トップリンクはターンバックルを回して伸縮させ、作業機の姿勢を調整します。
トップリンクの取付位置、取付長さは作業機によって異なります。
作業機の取扱説明書に従い調節してください。

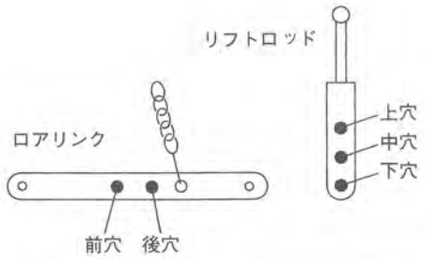


標準のトップリンクをトップリンクヒンジの穴に取り付けます。
(作業機によりⓐ、ⓑ、ⓒ、ⓓに調節してください。)



リフトロッドおよびロアリンク

リフトロッドおよびロアリンクの穴は、作業機により下表の位置で使用してください。
(詳細は作業機の取扱説明書に従ってください。)

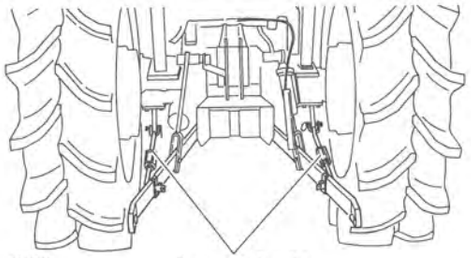


ロアリンク	リフトロッド	作　業　機
前穴	中穴	標準ロータリ 一般作業機
前穴	上穴	地上高を必要とする作業機
前穴	下穴	深さを必要とする作業機
後穴	中穴	揚力を必要とする作業機

左右のリフトロッドは同じ穴位置を使用し、右側のリフトロッドシリンダで作業機に水平に調整してください。

チェックチェン

ターンバックルで次のように調整してください。
①プラウ、ハロー、サブソイラ等の作業機は、作業機が左右に5～6㎝動く程度に調整してください。ただし、作業機が横ぶれしてタイヤに当たらないようチェックしてください。
②ロータリー・モア等の作業機は、作業機が左右に振れない程度に調整してください。



チェックチェン

作業機を取り付けないとき

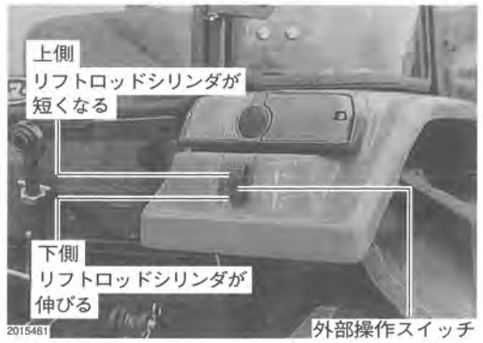
①ロアリンクがタイヤに当たらないよう、振れ止めをしておいてください。

22. リフトロッドシリンダ外部操作スイッチの使いかた

⚠注意

- **外部操作スイッチを操作するときは、必ずタイヤの外側から行ってください。**
- **守らないと作業機の上昇・下降によりケガをするおそれがあります。**

①傾き自動スイッチを「切」にしてください。
②外部操作スイッチの上側を押すと、押している間はリフトロッドシリンダが短くなっていきます。
スイッチの下側を押すと、押している間はリフトロッドシリンダが伸びていきます。



③作業機を装着する時は、左側のロアリンクにピンを合わせてから、右側のリフトロッドシリンダで伸縮してピン穴位置を合わせて装着してください。

【取扱いの注意】

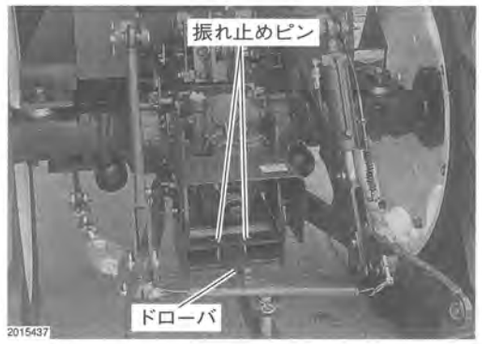
- **作業機上下レバーを使って作業機を昇降するときは、リヤウインドウに作業機のレバーが当たらないよう、必ず作業機を見ながら少しずつ動かしてください。**
  (作業機上下レバーの操作では「最上げ」位置の規制は働きません)

23. スイングドローバの使いかた

⚠警告

- **けん引作業は、必ずドローバを使用してください。トップリンクやロアリンクなどでのけん引はしないでください。守らないと転倒のおそれがあります。**

けん引作業機を使用する場合は、必ずスイングドローバをお使いください。
3P (PTO駆動) で使用する作業は、スイングドローバを左側へ固定してください。
左右の調節は振れ止めピンを抜いて調節します。



24.作業機の取り扱いについての注意事項

⚠警告

- トラクターを移動して作業機を着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。
- 作業機の着脱は、平坦で安定した場所で、行ってください。夜間は、適切な照明をしてください。
- 重い作業機を装着した場合には、フロントにバランスウエイトをつけて、バランスを保ってください。
- 作業機を調整する場合は、トラクターの駐車ブレーキをかけ、また、エンジンを停止し、かつ、PTO変速レバーが「中立」位置にあることを確認したうえで行ってください。
- けん引作業をするときは、かならずドローバヒッチを使用し、それ以外で引っ張らないようにしてください。
- けん引作業、傾斜地での作業などは、輪距（左右のタイヤの間の幅）を広くして使用してください。
- 作業機によっては、かなりの長さになりますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。
- バランスウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。
- フロントローダー作業時は、後方に作業機をつけるなどして前後バランスを保ってください。
- 装着する作業機の取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。
  守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- PTO軸を使用しないときは、PTO軸の安全カバーをかならず取り付けてください。守らないと、巻き込まれたりして、ケガを負うおそれがあります。
- 作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。守らないと、作業機がこわれ、事故をおこすおそれがあります。

25.パワーステアリングについて

⚠注意

- エンジン運転中は、ハンドル操作が大変軽くなっていますので、道路走行など慎重に行ってください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

パワーステアリングは、エンジン運転中のみ作動します。ただし、エンジン回転が低速のときは、多少ハンドルが重くなります。

【取扱いの注意】

- ハンドルをいっぱいに切るとリリーフ弁が働き、信号音がでます。短時間であればかまいませんが、この音が鳴ったままで運転しないでください。
- 走行しないでハンドルを切る（スエ切り）ことは、タイヤやリムなどの損傷を早めますので、必要なとき以外は操作しないでください。

26.フロントウエイトについて

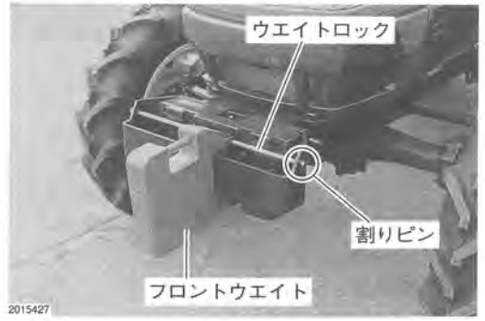
⚠警告

- 重い作業機を装着した場合には、前輪が浮き上がりがちになり、ハンドル操作が効かなくなったり、転倒するおそれがあります。作業機に合った適切なフロントウエイトを付けてください。
- フロントウエイトを付けても適切なバランスが保てないような重い作業機は使用しないでください。

このトラクターには、別売のフロントウエイトがあります。
1枚20kgまたは、30kgのフロントウエイトを8枚付けることができます。装着する作業機に応じて前輪荷重の割合が20％以上になるようにフロントウエイトを付けてください。

フロントウエイトの取り付けかた

フロントウエイトをバンパーに引っかけて、ウエイトロックを差し込み、割りピンで固定してください。



E-JACについて

1.各部のなまえとはたらき

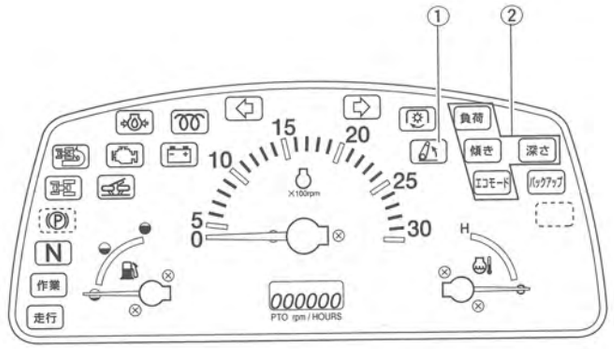
通常作業に必要なもの

作業機上下レバー
作業機を任意の位置に設定し、一定に保ちます。リフトランプが点灯しているときでも作業機上下レバーを一度、最上昇位置に操作してから作業機を下げることができます。

クイックアップ(作業機昇降)スイッチ
ワンタッチで作業機の上げ下げが行えます。作業機上下レバーで下げ位置を設定すると、設定位置まで作業機が下降して停止します。



ストッパー
作業機上下レバーを「上昇」位置で固定するときまた、作業機上下レバーの操作範囲を制限したいときに使用します。



①リフトランプ
リフトランプが点灯している場合は、自動が働きませんので、昇降スイッチを「下げ」側に操作して、ランプを消灯してください。

②深さ・傾き・負荷・E(エコ)モード表示ランプ
ランプが点灯しているときは、自動が働いています。

通常作業に必要なもの

E-JACボタン
ボタンを押すと、ランプが点灯し、深さ・傾き・E(エコ)モードを自動設定し、同時に下げクッション機能も働きます。このとき、パネルの表示ランプ「深さ」「傾き」「E(エコ)モード」が点灯します。この状態で、通常の耕うん作業が行えます。

深さダイヤル
ロータリーの耕うん深さを調節します。

バックアップボタン
ランプが消灯時、ボタンを押すと、ランプが点灯し、バックアップ機構が働きます。
シャトルレバーを「R(後進)」位置に入れると、自動的に作業機が上がります。ランプ点灯時、ボタンを押すと、ランプが消灯し、バックアップ機構が解除されます。



Eターン・Eバック速度切換スイッチ
E(エコ)モードでのEターン(旋回)速度、およびEバック(後進)速度が「切」、「速」、「遅」、の3段階に選択できます。

⚠注意

次のような作業では、バックアップ機構は解除してください。

- **トラックへの積込み・積降し作業**
- **あぜ越え・ほ場への出入り作業**
- **果樹園・ハウス内作業で支柱や木に当たる場合**
- **トレーラなど作業機を上下しない作業**
- **一般道路走行時**
- **格納時**

特定の作業に使うもの

作業条件を設定する必要のある場合は、カバーを開けて、調節してください。



傾き設定スイッチ
作業機の傾きを任意に設定できます。

●「傾き」自動で使用する場合
パネル表示ランプ「傾き」が点灯しているとき、設定スイッチを操作して、作業機を任意の角度に設定すれば、トラクターの傾きにかかわらず、作業機を地面と一定の角度に保つことが出来ます。
設定操作中に、作業機が地面に対して水平位置を通過する場合は、水平位置で一旦停止します。

●「傾き」手動で使用する場合
パネルの表示ランプ「傾き」が消灯しているとき、設定スイッチを操作して、作業機を任意の角度に設定すれば、トラクターにたいして水平位置を通過する場合には、平行位置で一旦停止します。

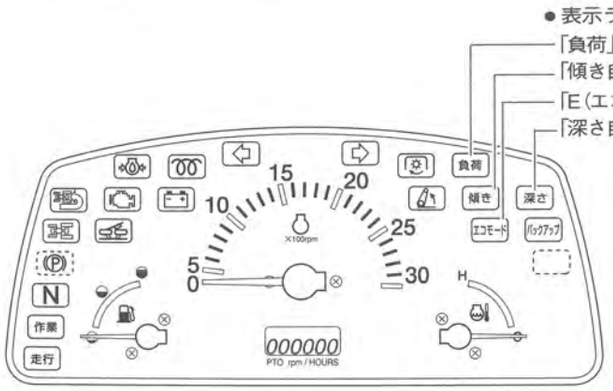
モード切換ボタン
●ボタンを押すと「深さ＋傾き」「負荷＋深さ」「負荷＋傾き」「深さ」「傾き」「負荷」自動に順次切換ります。どのレンジに入っているかは、パネルの表示ランプに表示されます。

「深さ自動」
●ロータリー使用時にロータリーの耕うん深さを一定に保ちます。

「傾き自動」
●トラクターの傾きにかかわらず、作業機を地面と一定の角度に保つことができます。また、作業機を最上げ付近に上げたときには、作業機は本機と平行になります。

「負荷」
●ロータリーの耕深を制御してエンジン負荷を一定に保ちます。
負荷制御のみで作業する場合でも、耕深は深さダイヤルで設定します。この場合は深さダイヤルで作業機の位置の設定となります。

「E(エコ)モード」
●Eガバナーの働きで、高速でのロータリー作業に適したエンジン出力性能になります。
●クイックアップスイッチを「上」にするとEガバナーの働きでエンジン回転が下がり減速し、旋回に適した速度となります。クイックアップスイッチを「下」にするとエンジン回転が元に戻ります。
●シャトルレバーを「R(後進)」位置にすると、Eガバナーの働きでエンジンの回転が下がり減速し、後進に適した速度となります。

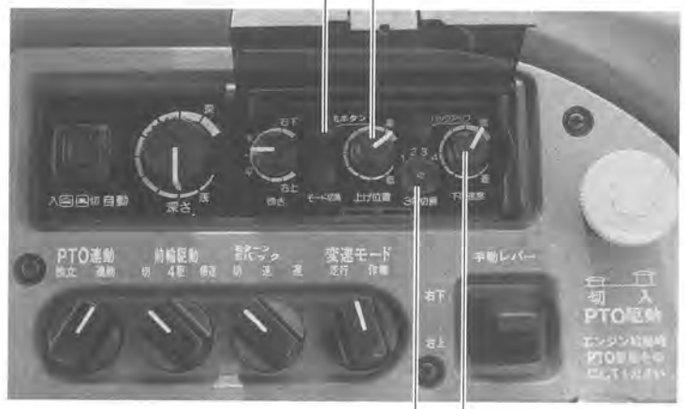


特定の作業に使うもの

Eボタン
●Eガバナーの働きで、高速耕うんに適したエンジン出力性能となります。
クイックアップスイッチを「上」にするとEガバナーの働きでエンジン回転が下がり減速し、旋回に適した速度となります。
クイックアップスイッチを「下」にすると、あらかじめアクセルレバーで設定したエンジン回転に戻ります。
●シャトルレバーを「R」(後進)にするとEガバナーの働きでエンジンの回転が下がり減速し、後進に適した速度となります。
●ロータリー脱着時
パネルの表示ランプ「深さ」「傾き」「バックアップ」「エコモード」が点灯している場合は、E-JACボタンを押して表示ランプを消灯状態にしてください。

上げ位置ダイヤル
クイックアップスイッチまたは、バックアップで作業機を上げたときの作業機の最上げ位置を設定します。

【取扱いの注意】
作業機上下レバーを「最上げ」位置にしたときは、ダイヤル設定位置にかかわらず作業機は、最上げになります。



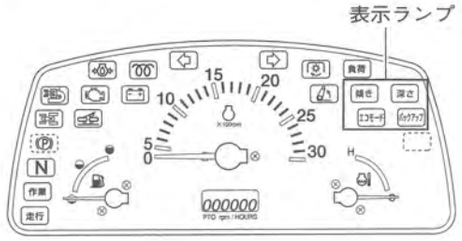
3P切換えスイッチ
作業機をつけかえたとき、その作業機によって定まる３点リンクの取付状態に応じて、スイッチを切換えます。(75ページ参照)

下げ速度ダイヤル
クイックアップスイッチで、下げ操作したときの、作業機の下げ速度を調節します。
下げ速度ダイヤルの設定位置に同調してクッションのきき始めの高さを自動調節します。

2.基本的な使いかた

路上走行のとき

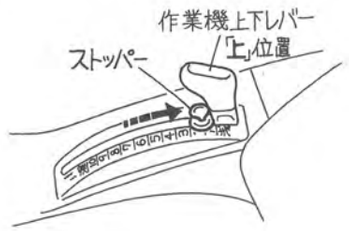
路上走行するときは、作業機が自然に下降したり、傾いたりしないように、次の処置を行ってください。
パネルの表示ランプが点灯している場合は、E-JACボタンを押して、表示ランプ「深さ」・「傾き」・「バックアップ」・「エコモード」を消灯状態(手動)にしてください。





【取扱いの注意】

- **油圧ストップ・フローコントロールバルブは開いたままで、作業機上下レバーを「上げ」位置にして、ストッパーをセットして走行してください。**



ロータリー作業

パネルの表示ランプが消灯しているときは、E-JACボタンを押して、「深さ」・「傾き」・「バックアップ」・「エコモード」のランプを点灯させてください。



深さダイヤルで耕深を設定した後、クイックアップスイッチでロータリーを下ろしてください。

※作業機上下レバーは、最下げ「下」の位置にしておいてください。



実際の耕深を見ながら、希望の耕深でないときは、深さダイヤルで耕深を調節してください。



3.E(エコ)モードの使いかた

⚠警告

次のようなときは、E-JACボタンを押して、表示ランプ「深さ」・「傾き」・「バックアップ」・「エコモード」を消灯状態(手動)にしてください。





- **トラックへの積込み・積降し**
- **あぜ越え、ほ場への出入り**
- **一般道路走行時**
- **格納時**
- **作業機の着脱、調整時**

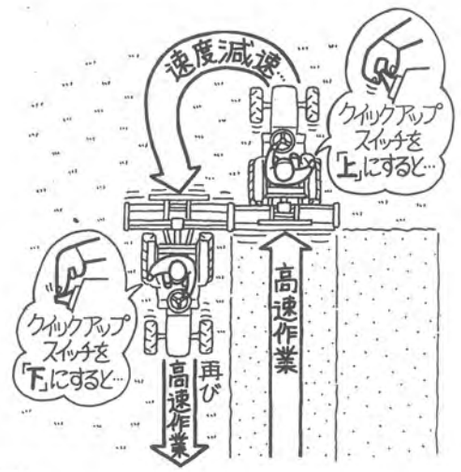
守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。

パネルの「エコモード」ランプ表示は、高速耕うんを行うときに使用します。
E-JACボタンを「入」にするか、Eボタンを「入」にしてください。計器パネルのエコモードランプ(緑)が点灯し、E(エコ)モード(高速耕うんモード)となります。

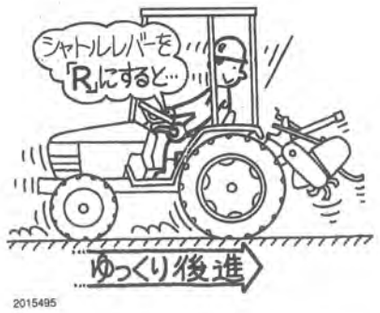


<E(エコ)モードでの機能>

- Eガバナーの働きで、高速耕うんに適したエンジン出力性能となります。
- クイックアップスイッチを「上」にするとEガバナーの働きでエンジン回転が下がり減速し、旋回に適した速度となります。(Eターン)
  クイックアップスイッチを「下」にすると、あらかじめアクセルレバーで設定したエンジン回転に戻ります。



● シャトルレバーを「R」(後進)にするとEガバナーの働きでエンジンの回転が下がり減速し、後進に適した速度となります。(Eバック)
シャトルレバーを「N」(中立)または、「F」(前進)にしてもエンジンは元の回転に戻りません。



E-JACボタンまたは、Eボタンを「切」にすると計器パネルのEモードランプ(緑)が消灯し、通常のエンジン出力性能となり、クイックアップスイッチを「上」にしても、シャトルレバーを「R」(後進)にしてもエンジン回転は下がりません。

【取扱いの注意】

- **E(エコ)モード「入」の状態で、クイックアップスイッチを「上」あるいはシャトルレバーを「R」(後進)にして、エンジン回転が下がった状態でアクセルレバーをいったん低速方向に動かし、エンジン回転を1500rpm以下にした後は、アクセルレバーで任意のエンジン回転数にセットできます。**
- **E(エコ)モード「入」の状態で、クイックアップスイッチを「上」あるいはシャトルレバーを「R」(後進)にして、エンジン回転が下がった状態で「E(エコ)モード」を「切」にしても、計器パネルのエコモードランプは消灯せず、エンジン回転も下がったままでエコモードを維持します。アクセルレバーをいったん低速方向に動かし、エンジン回転を1500rpm以下にするとエコモードランプは消灯し、E(エコ)モードは解除され、アクセルレバーで任意のエンジン回転数にセットできます。**



- Eターン、Eバックの速度は旋回速度切換スイッチで「切」・「速」・「遅」の3段階に選択できます。

4.高速耕うんに適した車速

高速耕うんを行うときは、Eボタンを「入」にし、以下の速度を選んでください。

副変速	主変速	MT501, MT551, MT601	
		Km/h	Km/s
1	3	2.8	0.8
1	4	4.0	1.1
1	5	4.8	1.3

【取扱いの注意】

- **耕深や土質の関係でエンジン負荷が大きくなるとエコモードランプが点滅します。そのときは車速を1段落としてください。**



〈Eターン・Eバックの設定〉

- E(エコ)モードで高速耕うん時、旋回速度または後進速度を3段階に調節できます。速いと感じるときは、旋回速度切換スイッチを「遅」の方へ回し、旋回速度または後進速度を落としてください。

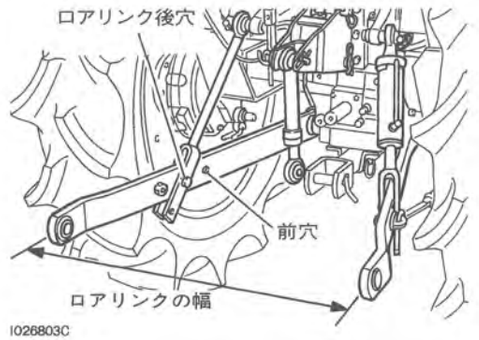


5. 3P切換えスイッチ

作業機をつけかえたとき、その作業機によって定まる3点リンクの取付状態(ロアリンク幅およびロアリンク穴位置)に応じて右表より選択し、その位置にスイッチを切換えてください。



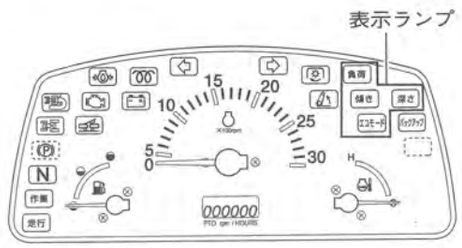
※操作カバーを開けて、マイナスドライバを使って行ってください。
※作業機の取り付けは作業機の取扱説明書に従って行ってください。



3P切換スイッチ	ロアーリンク幅	ロアーリンク穴位幅	作業機別
1 2 3 4	広(718mm)	前	スーパーヒッチ付きロータリ一般作業機
1 2 3 4	広(718mm)	後	スーパーヒッチ付一般作業機
1 2 3 4	狭(600mm)	前	スーパーヒッチ付一般作業機
1 2 3 4	狭(600mm)	後	スーパーヒッチ無一般作業機

6.センサ異常時の表示について

センサに異常が発生した場合は、パネルの表示ランプが点灯します。この場合は、正常作業が行えなくなりますので、お買い上げいただいた販売店、または農協で点検を受けてください。



7.ヒューズについて

ハーネスのショートなどによりヒューズが切れた場合は、故障個所を修理した後、ヒューズBOXのヒューズを交換してください。



エンジンルーム内ヒューズBOX

ブレーキランプ 10A	予備	5A	エンジン 5A	
JAC 10A	予備	5A	フラッシャランプ 10A	
外部電圧 20A	予備	10A	インジケータ 10A	
ワイパーモータ 20A	予備	15A	ヘッドランプ 15A	
ワークランプ 10A	予備	20A	ミッションバルブ 10A	
	予備		スタータリレー 5A	

198448-65780



キャビン内ヒューズBOX

予備	5A	予備	10A	予備	20A					198463-65780
メモリ電源ルームランプ	エアコンブロア	ワークランプF	ワークランプR	リヤワイパー						
5A	25A	15A	10A	10A						

作業後の手入れについて

正しい手入れを行ってください。

1.作業後の手入れ

⚠危険

- **シートをかける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラが十分冷えたことを確認してからかけてください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。**

その日の内にトラクターを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各グリス注入部(グリスニップル)には、グリスアップを行ってください。

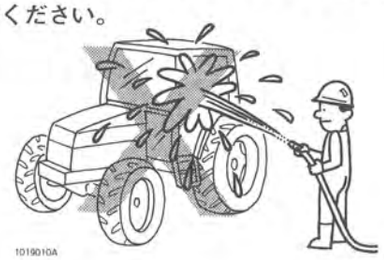
⚠注意

- **点検・整備の修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。**
- **点検・整備をするときは、マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行ってください。守らないと、やけどを負うおそれがあります。**

【取扱いの注意】

- **電装品にはできるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因となります。**

- **キャビンの洗車の注意**
  使用後洗車する場合、高圧洗浄機を使用してキャビンへの直接放水をすると、キャビン内へ水が漏れる場合がありますのでさけてください。



2.フロントマスク・サイドカバーの開閉のしかた

フロントマスクの開閉のしかた

①フロントマスクのオープンレバーを手前に引くと、フロントマスクのロックが解除されます。



②フロントマスクを手前に引き、前照灯のカプラーを外せば、フロントマスクが外れます。



③フロントマスクを閉じる場合は、カプラーを取り付けて下側の突起部を溝に入れ、前面を軽く押すとロックされます。

サイドカバーの開閉のしかた

①ロアカバー左右の取手口に指を入れ、手前に引くとカバーが外れます。



2015470

②サイドカバー左右のツマミ(4ヶ所)を起こし、回して手前へ引き、やや持ち上げてサイドカバーを外します。



2015471

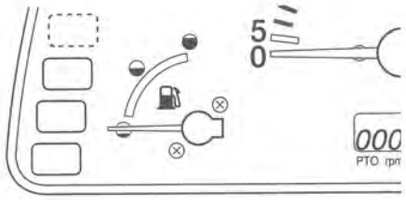
3.燃料の点検・給油のしかた

⚠危険

- **燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明に絶対にしないでください。**
- **燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。**
- **エンジンが回転しているときや、エンジンが熱い間は、絶対に給油しないでください。**

守らないと、火災をおこすおそれがあります。

メインスイッチを「入」位置にして、燃料計が減少位置を示したら、燃料キャップをはずして給油口より補給してください。





2015430

【取扱いの注意】

- **給油するときは、こし網を使用してください。**

作業後の手入れについて－正しい手入れを行ってください。

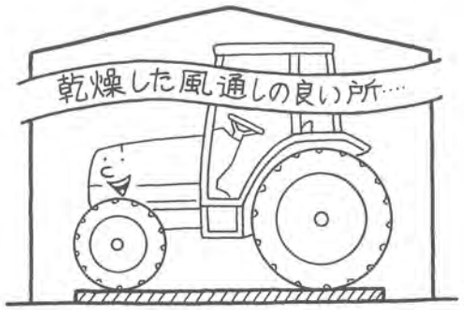
4.長期間使用しない場合の手入れ

⚠警告

- **格納する場合は、バッテリを取り外し、キーを抜き取り保管してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**

トラクターを長期間使用しない場合は、次の要領で整備し、格納してください。

①長期間保管の場合は、必ずキースイッチを「切」にしておいてください。
②乾燥した風通しの良い所で、ウエイト等は取り外し、ロータリーも取り外すか、降した状態にして、下には板を敷いてください。



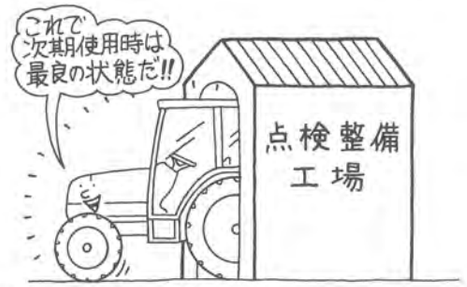
2015453

③外部の錆びやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。
④燃料タンクに燃料を満タンにしてください。空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。燃料コックは「C」(閉の状態)にしてください。
⑤バッテリを完全充電し、なるべく本機から取り外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。また、本機に取り付けたまま保管するときは、必ずアース側(一側)を外してください。
⑥冷却水を抜き取ってください。
⑦エアクリーナ・マフラー・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないよう、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。
⑧タイヤには、前・後輪とも、正規の空気圧にしてください。(95ページ参照)
⑨バックアップ切替スイッチを「切」の位置にしてください。

【取扱いの注意】

- **バッテリは、使わなくても自然放電します。1カ月に1度は充電器で完全充電してください。(89ページ参照)**

長期間使用されない間に、保守整備契約制度による、点検整備をお受けになりますと、次期使用時に最良の状態でご使用いただけます。



2015454

定期の点検・調整について

⚠警告

- 点検・整備は、交通の危険がなく、トラクターが倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、タイヤに車止めをして行ってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- 1年毎に定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料パイプやパワーステアリングホースは2年毎に交換してください。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。
- 点検・整備・修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。
- 点検・整備などで取り外したカバー類は、かならず取り付けてください。

守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

- マフラやエンジンミッションなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

守らないと、ヤケドをするおそれがあります。

定期点検や整備は、農閑期に行い農繁期には機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとに販売店・整備工場で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。特に燃料パイプや、パワーステアリングホース、ラジエータホースなどのゴムホース類や電気配線は2年ごとに交換するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

1.定期点検一覧表

実施項目 ＼ アワメータ表示時間	50時間目	100時間目	150時間目	200時間目	250時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	550時間目	600時間目	参照ページ
エンジン潤滑油交換	交換	交換		交換		交換		交換		交換		交換	83
ミッションオイル点検(交換)	交換	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	83
フロントアクスルオイルの点検(交換)	交換	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	84
エンジンオイルエレメント交換	交換					交換						交換	85
ラインフィルタ(ミッションオイルエレメント)交換	交換					交換						交換	85
ラジエータ内部の掃除	冷却水交換時												86
燃料コシ器の洗浄およびエレメントの交換		○		○		交換		○		○		洗浄	85
冷却水の点検(交換)	仕事時毎に点検(1年毎に交換)												86
エアークリーナエレメントの点検(交換) ※4	○	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	87
防塵網のゴミつまりの掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	87
冷却ファン・ラジエータのゴミつまりの掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	87
バッテリ液量点検	仕事時毎に点検												89
バッテリ液比重点検および補充電		○		○		○		○		○		○	89
燃料パイプおよび結合部の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	89
パワーステアリングのゴムホースの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	89
ラジエータホースの点検・交換	2年毎に交換												89
油圧ゴムホースの点検・交換	2年毎に交換												-
燃料パイプ・電気配線の交換	2年毎に交換												89・90
電気配線の点検　※1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	90
各部グリスアップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	90
ステアリング各部締付き点検		○		○		○		○		○		○	-
重要ボルトナットの点検(増締)	○	○		○		○		○		○		○	-
冷却ファンベルトの点検	○	○		○		○		○		○		○	93
エンジンのブリーザパイプの点検	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	-
エンジンクランクケースの洗浄												○	-
吸排気弁すき間の点検												○	-
燃料噴射弁の点検						○							-
発電機、始動電動機の点検	○	○				○				○			-
油圧装置の点検	○	○								○			

※1　50時間ごとに点検を基本としますが、使用時間が満たない場合は1年ごとに行ってください。
※2　交換の必要なものは、使用時間に達していなくても2年ごとに交換してください。
※3　パワーステアリングの高圧ホースは2年ごとに交換してください。
※4　使用時間に満たない場合は、1年ごとに交換してください。

2. オイル・グリース・不凍液一覧表

種　　類	ディーゼル軽油JIS2号または特3号軽油を使用してください。		
エンジンオイル (新SAE、CC級) (JIS　K2216　2種 DG　または　DM)	純　正　油	マルチSTOUオイル（10W-30）	その他一流メーカーのオイルでAPIサービス分類CD級オイルを使用してください。
	全　　農	クミアイエンジンオイル（ディーゼル用）	
	日　石　三　菱	ダイヤモンドHDS-3 ダイヤモンドファームユニバーサルオイル	
ミッションオイル (油圧パワステオイル兼用 フロントアクスルオイル)	ハイトランプラス・トランスミッションフールド		
グリス (マルチパーパスタイプ)			作業前点検・50時間ごとグリスアップ
不凍液 (JIS　K2234　2種 パーマネントタイプ)			工場出荷は－30℃を基準としております。

注）気温－10℃以下のとき、燃料は特3号軽油を使用してください。

3.給油・給水一覧表

		MT501・551・601
燃　　料		65.0ℓ
冷却水	ラジエータ	7.5ℓ
	サブタンク	0.45ℓ
エンジンオイル		10.0ℓ
ミッションオイル		39.0ℓ
フロントアクスル		7.5ℓ

4.各部オイルの点検･交換のしかた

- 交換した排油は､絶対に川や下水道に流したりせずに､専門の業者に引き取ってもらうなどの適切な方法で処分してください。

⚠危険

- エンジンが回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油はしないでください。守らないと、火災を起こすおそれがあります。
- オイルを補給・交換する時は、必ずメインスイッチを「切」にし、エンジンが停止してから行ってください。

守らないと、PTOのドライブシャフトに巻き込まれるおそれがあります。

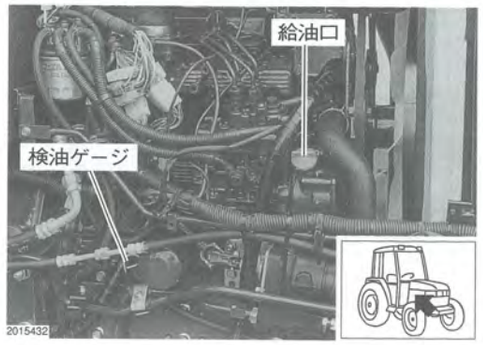
⚠注意

- エンジン停止直後のオイル交換はしないでください。守らないと、ヤケドをするおそれがあります。

エンジンオイル

点検

エンジン部右側横の検油ゲージを抜いて、先端をきれいにふいて差し込み、再び抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より検油ゲージ規定量まで入れてください。



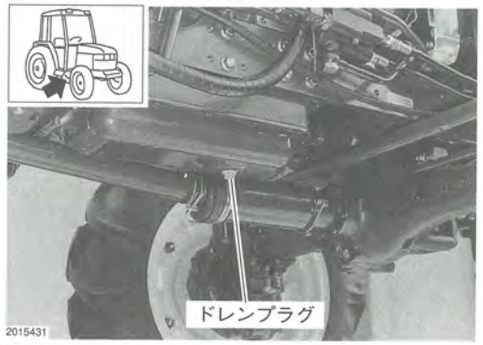
【取扱いの注意】

- オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。

交換

エンジン下部のドレンプラグから排油してください。給油はエンジンの給油口からしてください。

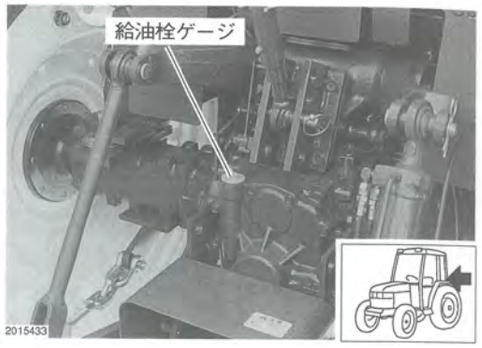
エンジンオイルは、定期的に交換すると同時に、気温・使用状況に合わせてエンジンオイルを使いわけることが大切です。



ミッションオイル

点検

ミッション後部の給油口のふたを外してゲージの先端をきれいにふき、ねじ込まない状態で差し込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口よりゲージの規定量まで入れてください。



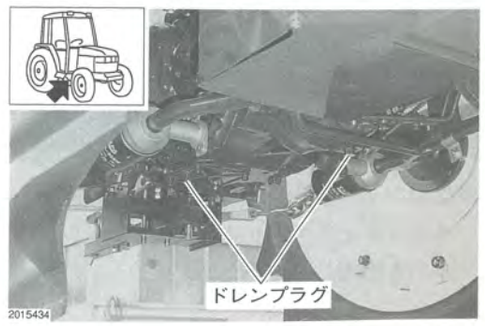
交換

ミッションケース下部2ヶ所のドレンプラグから排油してください。

給油はPTOリヤカバー上部の給油口から入れてください。

※ミッションオイルは、油圧オイル、パワステオイルと併用しています。

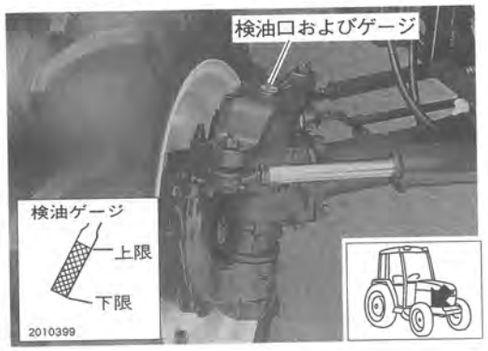
※ミッションオイルは、必ず純正ハイトランプラス・トランスミッションフールドを使用してください。



フロントアクスルオイル

点検

フロントアクスル右上部の給油口のふたをはずしてゲージの先端をきれいにふき、ねじ込まない状態で差し込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口よりゲージの規定量まで入れてください。



交換

フロントアクスル下部の左右ドレンプラグ2箇所から排油してください。
給油はエア抜きプラグを外し、フロントアクスル右上部から行ってください。

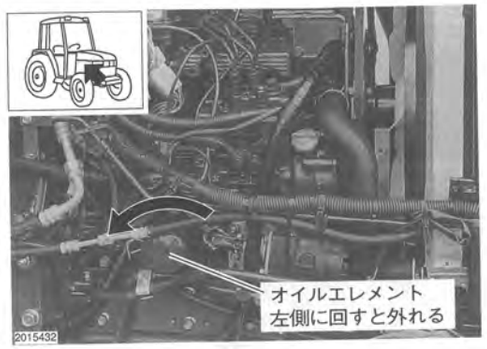


※フロントアクスルオイルは、必ず純正ハイトランプラス・トランスミッションフールドを使用してください。

5.各部エレメントの交換のしかた

エンジンオイルエレメント

300時間または、エンジンオイルを2～3回交換ごとにエレメントを取り替えてください。

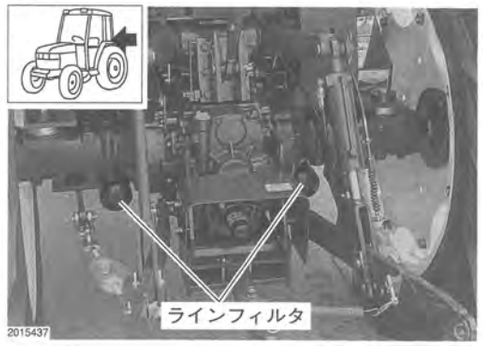


交換

①エンジンオイルを抜き取った後、カートリッジを左側に回して外します。
②新しいカートリッジの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、確実に取り付けてください。
③エンジンオイルを交換後、エンジンを始動して油圧パイロットランプが消えるまで回してください。
④油圧パイロットランプが消えたら、もう一度検油ゲージでオイル量の点検をし、不足していれば、補給します。

ラインフィルタ(ミッションオイルエレメント)

左右2ヶ所のラインフィルタは、カートリッジタイプになっています。300時間毎に交換してください。



交換

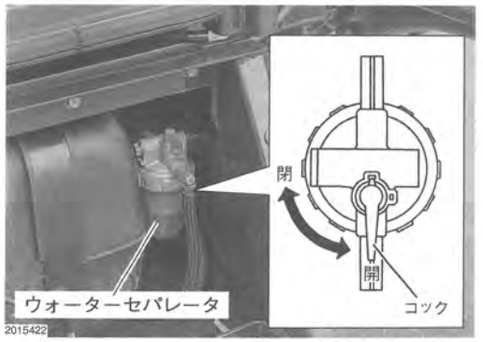
①ミッションオイルを抜き取った後、ラインフィルタのカートリッジを左側に回して外します。
②新しいラインフィルタの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、確実に取り付けてください。
③ミッションオイル交換後、一度エンジンをアイドリングで始動し、オイルを循環させてから、エンジンを停止し、検油窓でオイルの量を点検し、不足している場合は補給してください。

燃料コシ器エレメントの清掃・交換

①燃料コックを「C」(閉の状態)位置にします。
②コシ器を外し、コシ器内の水・ゴミを取除きます。
③コシ器の洗浄が終わったら元通りに取り付け、燃料コック「O」の(開の状態)位置にし、燃料エア抜きを行います。(燃料のエア抜きのしかた87ページを参照してください。)



④コシ器内のエレメントは、300時間毎に交換してください。



6.冷却水の点検・交換のしかた

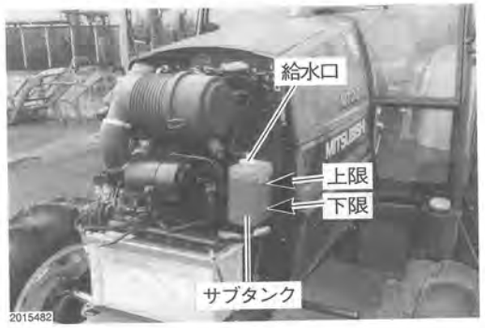
⚠危険

- **ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後に開けないでください。エンジンが停止してエンジンが冷えてから開けてください。守らないと、熱湯が吹き出し、ヤケドを負うおそれがあります。**

点検

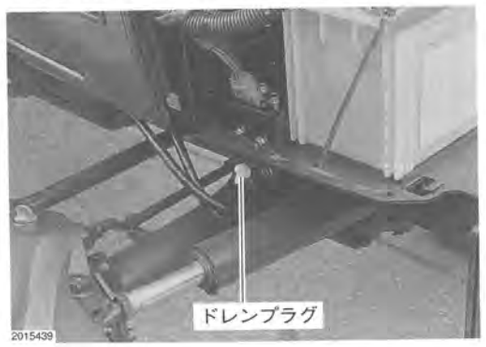
フロントマスクを開け、サブタンク内の水が「上限」から「下限」の範囲にあるか調べてください。

不足しているときは、サブタンクの給水口より清水を補給してください。



交換

①ラジエータキャップとドレンプラグを外し、ラジエータ内の水を全て抜きます。



②水道水で、ゴミや錆が出なくなるまでラジエータ部を洗います。

※ラジエータ洗浄剤を混合した水を入れ、15分以上エンジンを空回転させてから、水を抜き取ると、ラジエータ内はいっそうきれいになります。

③ドレンプラグを取り付け、不凍液を必要量入れてから、清水をあふれるまで入れます。

④ラジエータキャップを取り付けエンジンを始動して、不凍液と清水をよく混合します。

〈不凍液の取扱いについて〉

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果をもっています。出荷時にはオールシーズンタイプを使用しています。なお、不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯等においては下表を参照の上、安全な濃度で使用してください。

なお、工場出荷時の不凍液混合比率は、外気温度−30℃としております。

不凍液混合比率表

外気温度(℃)		−5	−10	−15	−20	−25	−30
比率	水(%)	82	73	66	61	55	50
	不凍液(%)	18	27	34	39	45	50

【取扱いの注意】

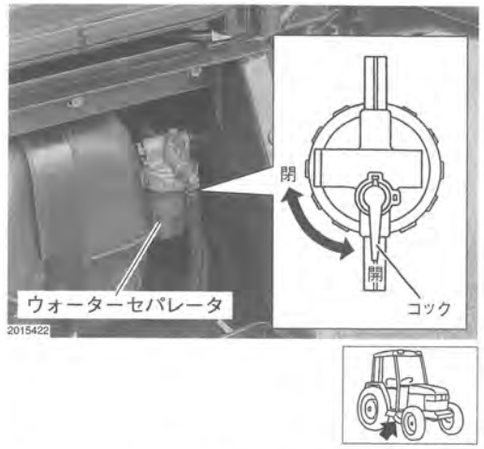
- **新しい冷却水と交換するときは、必ず防錆液を入れて、5分間エンジンを空回転し、防錆液の混合を早めてください。**
- **混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱書の指示にしたがってください。**
- **冷却水が自然に不足した場合には、清水だけを入れてください。(セミパーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して、確認してください。)**
- **不凍液の有効期限は1年です。毎年新しい不凍液と交換してください。**

7.燃料の空気(エア)抜きのしかた

燃料切れを起し、エンジンが停止したとき、または、点検整備で燃料コシ器エレメント、燃料配管を外したときは、次の手順で燃料の空気(エア)抜きをしてください。

①燃料タンクに燃料を補給します。

②燃料コックを「O」(開の状態)の位置にします。



③アクセルレバーを最高回転位置にし、メインスイッチを「始動」位置にしてセルモータを約10秒間回します。

以上で空気(エア)抜きは完了です。



8.防塵網とエアクリーナエレメントの掃除・交換のしかた

エアクリーナは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダライナ・ピストンリングの摩耗を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。50時間毎に掃除・300時間ごとに交換してください。規定時間になっていなくても、1年間でエレメントを交換してください。



〈防塵網の掃除のしかた〉

左上部のツマミを起こし、回して防塵網を手前に引いて横に引き出してください。

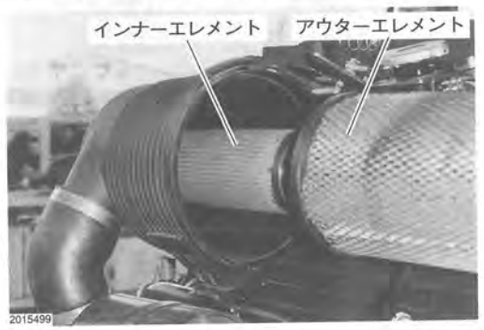
ワラクズやホコリを取り除いてください。

作業前、作業後に掃除してください。

〈エアクリーナエレメントの掃除のしかた〉

①蓋を取り外し、中のアウターエレメントを抜き取り、エレメントの内側から、空気を吹き付けるか、振動を与えて塵を落します。フインに傷を付けないように気をつけてください。





②インナーエレメントはアウターエレメントの3回の整備ごとに交換してください。

【取扱いの注意】

- インナーエレメントを掃除して、再使用しないでください。必ず新しい物と交換してください。

〈エアクリーナが詰まったとき〉

①エアクリーナが詰まった場合、センサ部に赤い表示が出ます。エレメントの点検をして、詰まりの原因を取りのぞいてください。





②センサの解除ボタンを押して、リセットしてください。

9.バッテリの点検のしかた

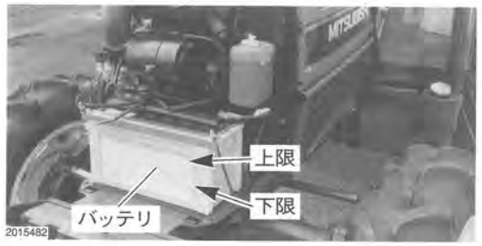
⚠危険

- バッテリの点検時・充電時、火気厳禁です。守らないと、引火爆発し、ヤケドを負うおそれがあります。
- バッテリ液を身体や服につけないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。守らないと、服が破れたり、ヤケドを負うおそれがあります。

⚠注意

- バッテリケーブルの取り付けは＋側を先に取り付け、取り外すときは一側から取り外してください。守らないと、ショートしてヤケドを負うおそれがあります。

バッテリの上限と下限のラインの間に液があるか調べます。不足している槽があれば蒸溜水を上限ラインまで補給してください。



【取扱いの注意】

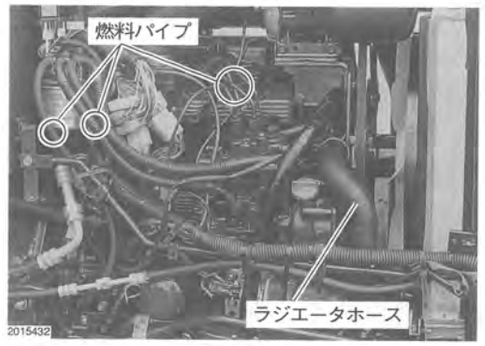
- バッテリ各槽に、液を入れすぎると、充電時にバッテリ液が吹き出し、トラクターの金属部を腐蝕させます。
- 急速充電は避けてください。
- バッテリを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した容量のバッテリを使用してください。
- 環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリは、放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリを購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

10.パイプ類の点検について

⚠危険

- 燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますのでかならず点検してください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

燃料パイプ、パワーステアリングホース、ラジエータホースなど傷んで燃料もれ、水もれがないか、また、締付ベルトがゆるんでないかも調べてください。傷んでいなくとも2年毎に交換してください。



【取扱いの注意】

- 燃料パイプを交換したときは、空気(エア)抜きをしてください。(87ページ参照)

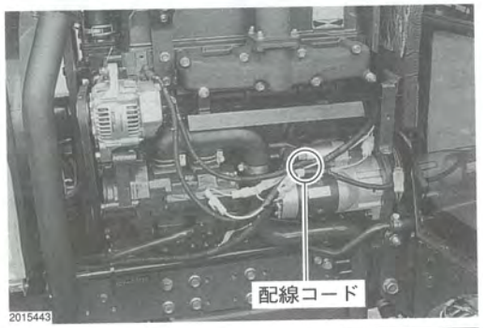
11.電気配線の点検について

⚠警告

- **配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや傷、または接続部のはずれが無いか、毎日作業前に点検してください。**
- **バッテリや配線に付着しているワラクズやゴミは、作業前、作業後にきれいに取り除いてください。**

守らないと、ショートして火災をおこすおそれがあります。

エンジンサイドカバーを外し、電気配線コードが他の部品に接触して被覆のはがれや傷、または、接触部のゆるみがないかを調べてください。傷んでいる場合は、お買い上げいただいた販売店または農協で修理してください。傷んでなくても使用時間50時間毎、または１年毎に定期点検を受けてください。

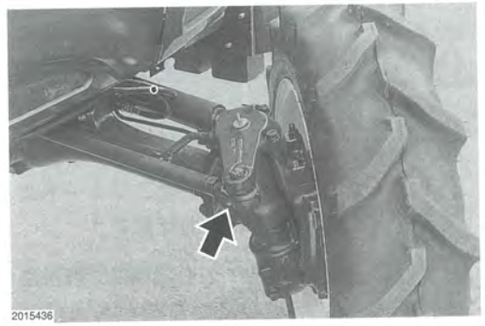




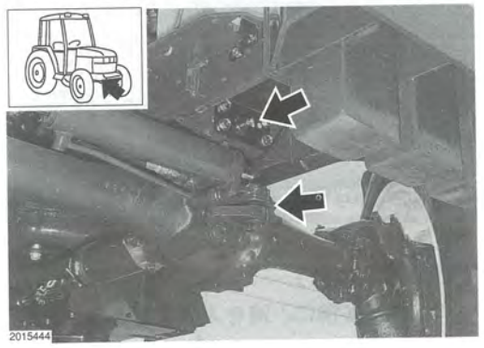
12.グリスアップ（注入）について

グリスアップは、50時間毎に行っていただきますが、作業に入る前に、各箇所のグリスの点検を行い、必要ならばグリスアップしてください。また、代かき作業等で泥水に入った後は、作業終了後必ずグリスアップしてください。

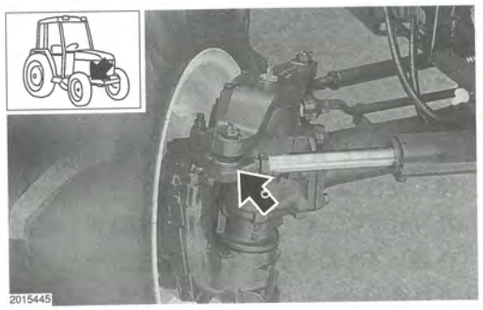
タイロッド（左右各 1ヵ所ずつあります）



センターピンサポート（前後各1ヵ所ずつあります）



パワステシリンダ

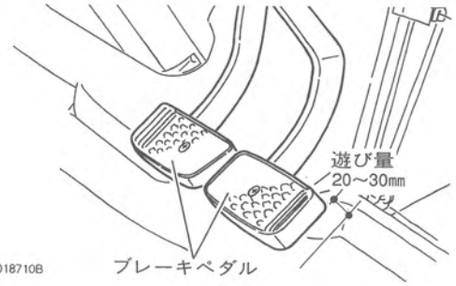


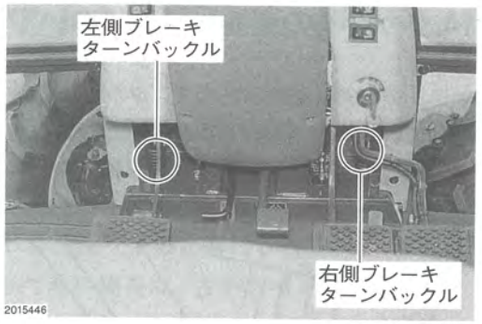
13.ブレーキの点検・調整について

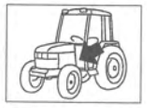
⚠警告

- **ブレーキのききが悪かったり、片ぎきがないように点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**
- **左右のブレーキペダルの遊び量が異なると、ブレーキの片ぎきが生じます。常に、左右の遊び量が同一であるようにしてください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**

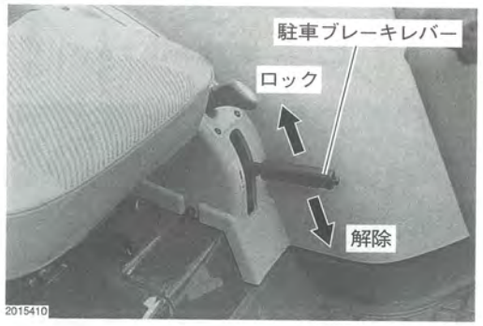
ブレーキペダルを踏み込んで、規定の遊び量（20～30㎜）と左右が同時に効くかを調べてください。規定の遊び量でない場合は、左右の遊び量が20～30㎜になるように、ブレーキペダルシャフトの前方上側にあるターンバックルで調節してください。調節後はナットを確実に締付してください。また、駐車ブレーキロックが確実に作動することを確認してください。





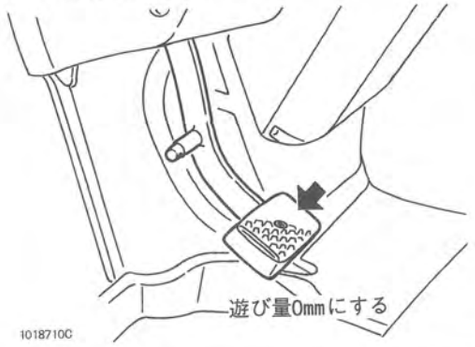


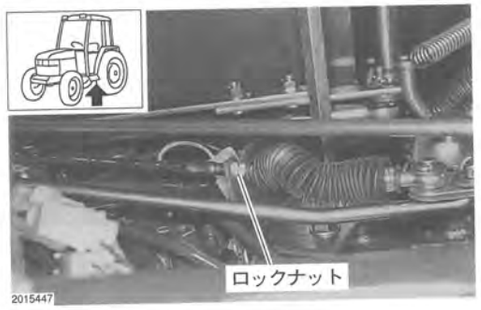
ハンドル下部



14.クラッチの点検・調整について

クラッチペダルを踏み込んで、クラッチの遊びがないように（遊び量0㎜）調整してください。調節後はワイヤーのロックナットを確実に締め付けてください。



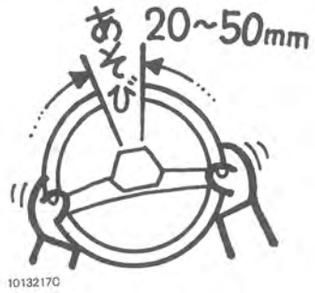


15.ハンドルの点検・調整について

⚠警告

- **ハンドルに著しくガタや遊びがないように、点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**

ハンドルを軽く左右に動かしたときの遊び量が20～50㎜の範囲にあるか調べてください。遊び量が適正でないとハンドルが重くなったり、直進性が悪くなります。遊び量が適正でないときは、お買い上げいただいた販売店、農協で整備してください。

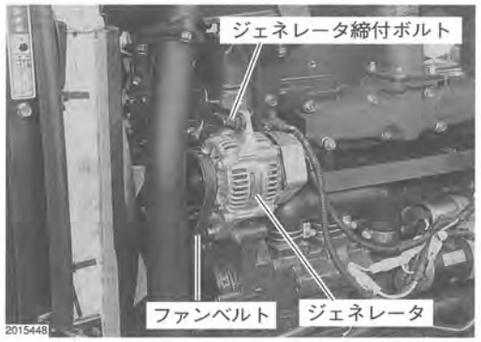


16.ファンベルトの点検・調整について

⚠注意

- **エンジンが十分冷えた状態で行ってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。**

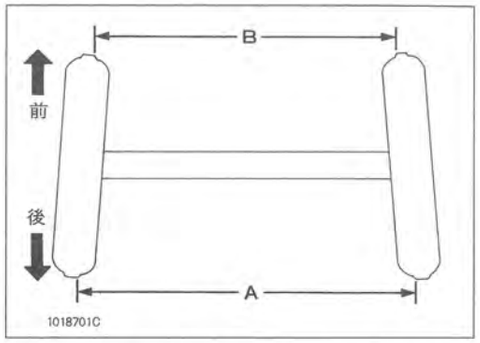
ロアカバーおよびボンネットサイドカバーを開け、ファンベルトの中間を指で押え、ベルトのたわみが10～15㎜あるか、ベルトが損傷していないか調べてください。たわみが適正でないときは、ジェネレータ締付ボルトをゆるめ、ジェネレータを移動させて張りを調節します。また。ジェネレータをいっぱいに動かしてもベルトがスリップするようでしたら、新しいベルトと交換してください。なお、新しいベルトは、交換後50時間目に必ず点検してください。





17.トーインの点検・調整について

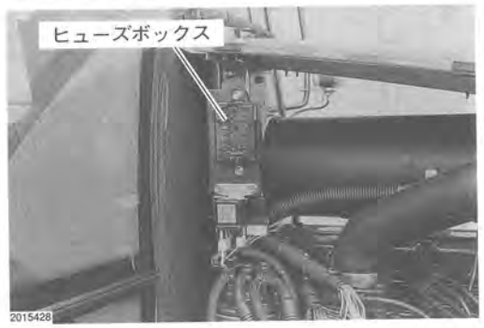
トーインの調整が悪いと、ハンドルを取られたり異常に振れることがあります。調整は前輪のA寸法とB寸法を測定し、A－Bが4～8㎜であるか調べてください。規定寸法でない場合は、左右のタイロッドエンドのロックナットをゆるめ、ネジ長さを調節します。トーインが4～8㎜になったらロックナットを締め付けてください。





18.ヒューズ・ヒュージブルリンクの点検・交換について

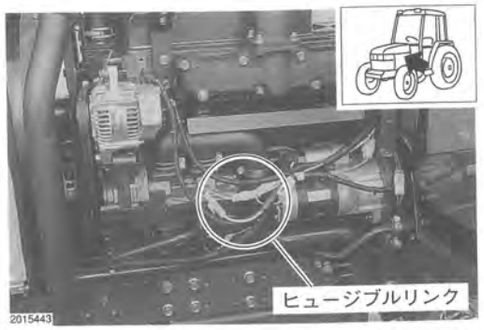
ヒューズボックスの蓋を外して、ヒューズを点検してください。切れていれば、規定容量のものと交換してください。
また、エンジンを停止して、メインヒューズ(ヒュージブルリンク)を点検してください。ヒュージブルリンクはヒューズの一種で万一、配線回路(常時通電している回路)へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。溶断したら外被(ビニール)が変色しますので、お買い上げいただいた販売店、または農協で点検を受けてください。



エンジンルーム内ヒューズBOX

ブレーキランプ 10A	5A	エンジン 5A
JAC 10A	予備	フラッシャランプ 10A
外部電圧 20A	10A	インジケータ 10A
ワイパーモータ 20A	予備	ヘッドランプ 15A
ワークランプ 10A	20A	ミッションバルブ 10A
	予備	スタータリレー 5A

198448-65780



ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた販売店または農協で点検を受けてください。

【取扱いの注意】

- **ヒューズを交換するときは、必ず規定容量のものを使用し、他のものは使用しないでください。**

19.タイヤの点検について

⚠警告

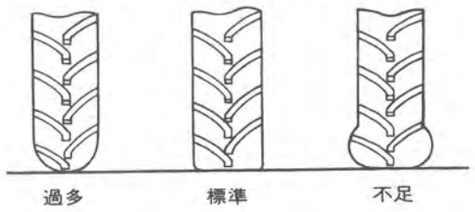
- **タイヤに空気を入れる際には、規定の最大空気圧以上に空気を入れないでください。**

守らないと、タイヤが破裂し、傷害事故をお

前・後輪の空気圧を標準空気圧に調整してください。また、タイヤに亀裂などがないか確認してください。
前・後輪に標準以上の荷重がかかるときは、空気圧を下表の最大圧内に調整してください。

タイヤ空気圧　(単位：kgf/㎠)

タイヤサイズ		推奨空気圧
前輪	8-18-6	2.4
	9.5-16-6	2.2
	8.3-20-6	2.4
	9.5-18-6	2.2
後輪	12.4-28-4(L)	1.2
	12.4-28-4(H)	1.0
	13.6-28-6(L)	1.6
	13.6-28-4(H)	1.0
	12.4-32-6(L)	1.6
	12.4-32-4(H)	1.2
	14.9-28-6(L)	1.4
	14.9-28-6(H)	1.2



20.排気ガスの色について

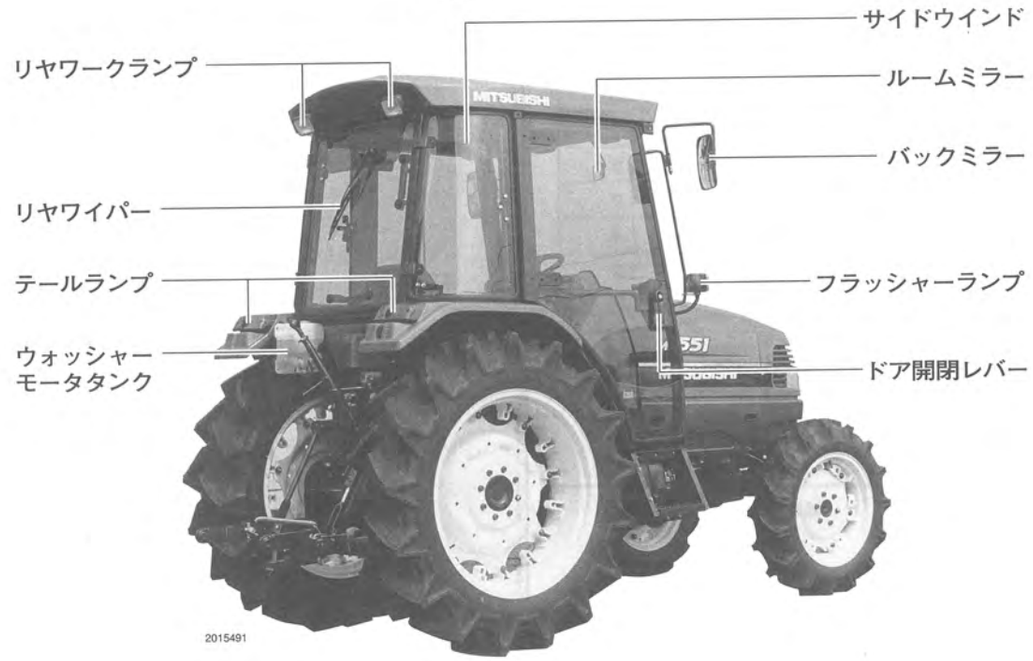
エンジン始動時は、少し黒色の排気ガスができますが、通常は無色です。
黒色…燃料が濃すぎるための不完全燃焼。
白色…エンジンオイルが燃焼しています。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。
黒色、白色の排気ガスが負荷をかけなくても出るときは、販売店または農協で整備してください。

キャビンについて

1.各部のなまえ

この取扱説明書の説明図は、本機MT551を基準にしています。

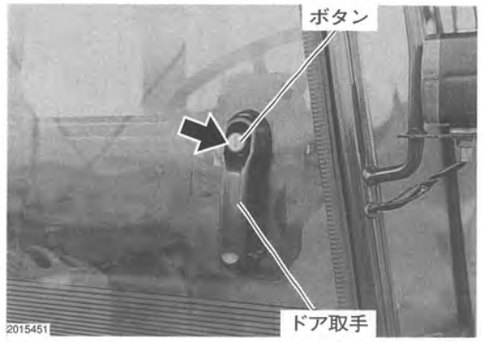




2.ドアの開閉のしかた

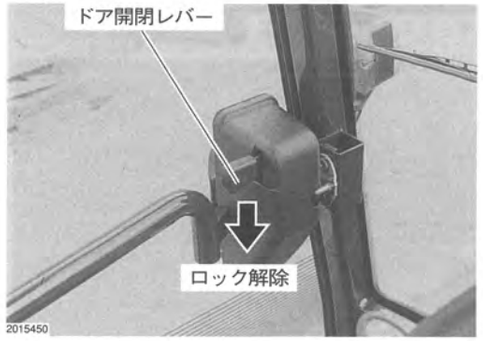
車外から

左右とも、ドア取手のボタンを押すとロックが解除されて、ドアが開けられます。



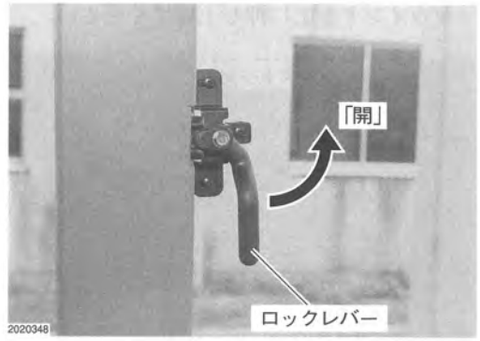
車内から

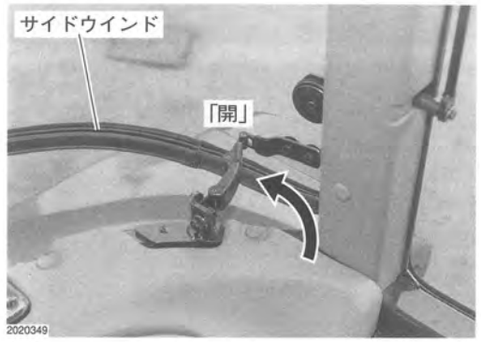
左右とも、ドア開閉レバーを下方向に押すと開閉できます。



3.サイドウインドの開閉のしかた

サイドウインドロックレバーを「開」方向に回し、サイドウインドを外に押してください。

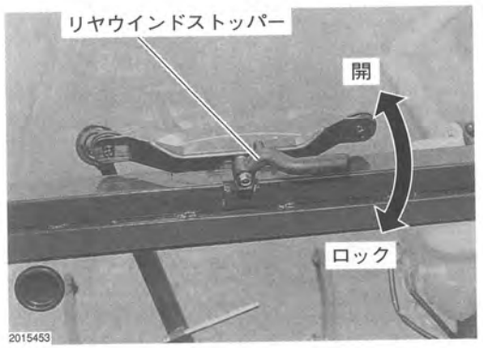




4.リヤウインドの開閉のしかた

リヤウインドの開閉のしかた

リヤウインドストッパーを「開」方向に回し、リヤウインドを上に押し上げてください。



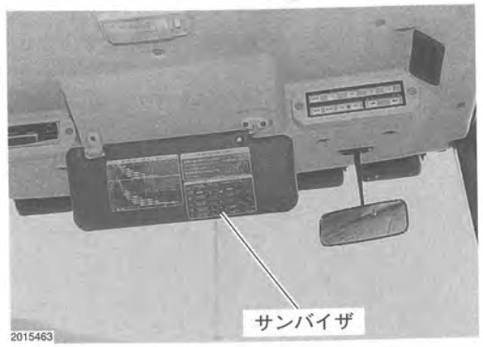


【取扱いの注意】

- 作業終了後トラクターを離れるときは必ず各窓を閉めてください。
  雨水などによりキャビン内がぬれることがあります。

5.サンバイザ

直射日光を遮るときに使用します。



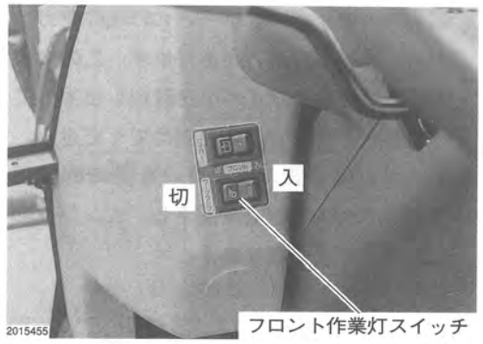
6.スイッチの使いかた

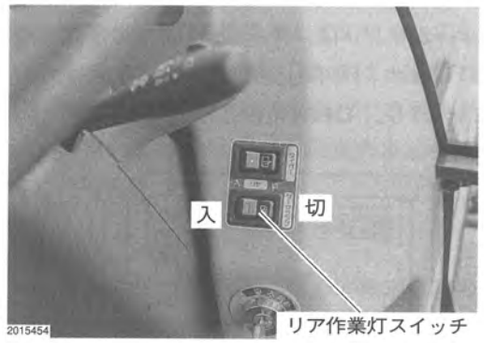
⚠注意

- 道交法により道路走行時、作業灯の点灯は違反になりますので必ず消灯してください。

作業灯スイッチ

スイッチを「入」方向へ押すと、フロント作業灯(4灯)とリヤ作業灯(2灯)が点灯します。





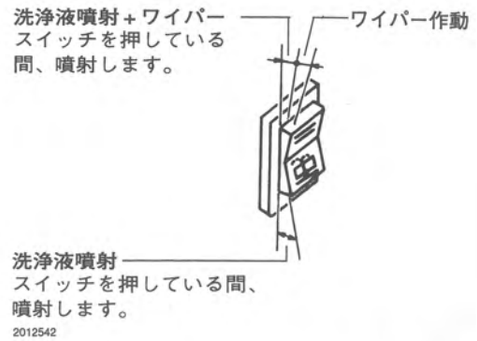
【取扱いの注意】

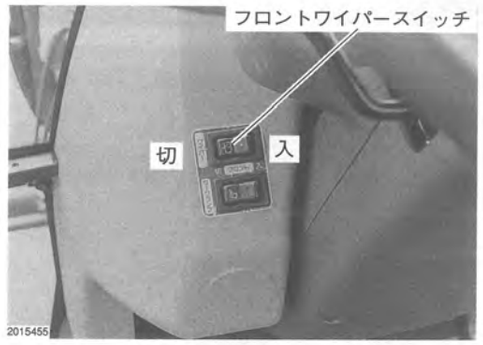
- エンジンを停止して作業灯を長時間使用すると、バッテリ容量が低下しエンジンの始動ができなくなります。

ワイパー・洗浄液噴射スイッチ

〈フロントワイパー〉

ダッシュボード左側についているスイッチで「入」「切」にします。

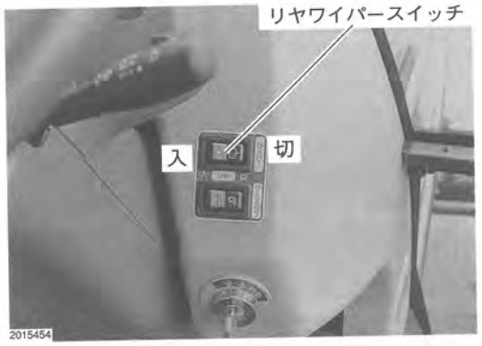






〈リヤワイパー〉
ダッシュボード右側についているスイッチで「入」「切」にします。

〈リヤウインド用洗浄液噴射スイッチ〉
リヤワイパーの洗浄液を噴射する場合は、スイッチを押してください。押している間、噴射します。





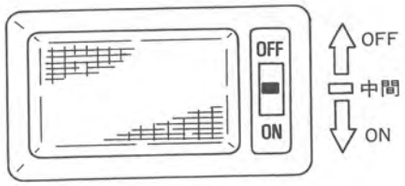
〈ウォッシャーモータタンク〉
フェンダ後側（左側）に取り付けられています。タンク容量は約1.5ℓで、水と液の割合は約１：１にします。



【取扱いの注意】
- ワイパーを止めるときは、メーンスイッチが「入」のままワイパースイッチを、「切」にしてください。
- ワイパーでの空ぶきは、ガラス面に傷をつけたり、ワイパーをいためますので洗浄液を噴射させてください。
- 洗浄液が出ないときは、ワイパースイッチを切ってください。洗浄液が空のまま作動させるとポンプの故障の原因になります。
- 寒冷時、ワイパーブレード（ゴム部）がガラス面に張りつくことがあります。このまま作動させると、ワイパーが破損しますのでヒーターで前面ガラスを暖めてください。
- エンジン停止後、ワイパーを長時間使用するとバッテリ容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

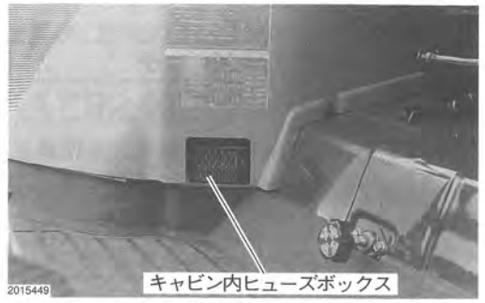
ルームランプ

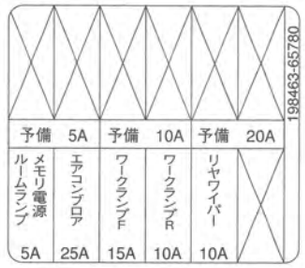
ルームランプは、スイッチ「ON」の位置で点灯します。「中間」位置ではドアを開けた時に点灯し、「OFF」位置では消えた状態です。



7.ヒューズの点検・交換について

ヒューズボックスは右側レバーガイドの前下側にあります。



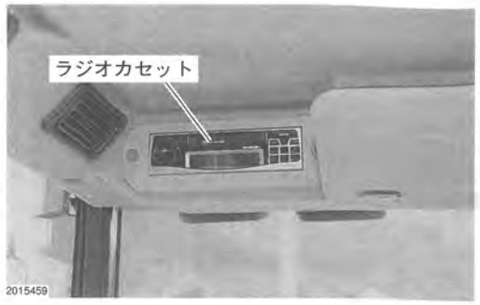


〈点検・交換のしかた〉
ヒューズボックスの蓋を外して、ヒューズを点検してください。切れていれば、規定容量のものと交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた販売店または農協で点検を受けてください。

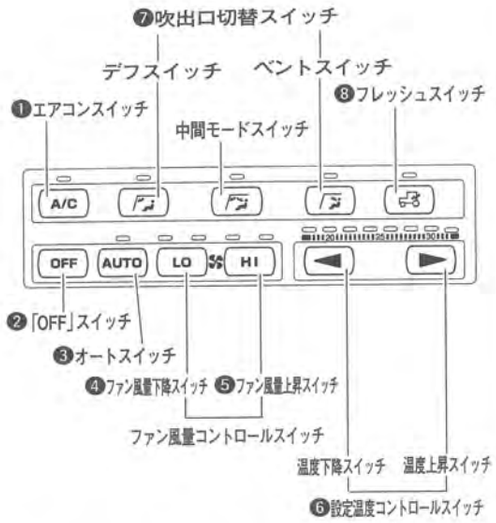
【取扱いの注意】
- ヒューズを交換するときは必ず規定容量のものを使用し、他のものは使用しないでください。

8.FM・AM付ラジオカセットの使いかた

FM・AM付ラジオカセットの取扱説明書をお読みください。



9.エアコンの使いかた



❶エアコンスイッチ

スイッチを一度押すごとに、エアコンが「ON」、「OFF」に切り換わります。

※「OFF」の状態からスイッチを押すと「ON」となり、緑色のランプが点灯します。再び押すと「OFF」になります。

❷「OFF」スイッチ

スイッチを押すと、ファン、エアコンが「OFF」になります。

❸オートスイッチ

オートスイッチを押すと、ファン風量と吹出温度を自動制御します。また、エアコンスイッチは自動的に「ON」となり、オートスイッチ、エアコンスイッチのランプが点灯します。

この時、ファンコントロールスイッチの全てのランプが消灯します。

❹ファン風量下降スイッチ

オートスイッチが「ON」の状態から、ファン風量下降スイッチを１回押すごとに、風量が一段ずつ下降します。

❺ファン風量上昇スイッチ

オートスイッチが「ON」の状態から、ファン風量上昇スイッチを１回押すごとに風量が一段ずつ上昇します。

❻設定温度コンロールスイッチ

温度上昇、温度下降スイッチを押すと、設定温度が上昇、下降します。

- 瞬時押す場合、設定温度が１℃ずつ変化します。
- 押し続ける場合、0.3秒ごとに設定温度が１℃ずつ変化します。
- 設定温度の両端（20℃未満、30℃を越える）で最大冷房、最大暖房状態に固定します。

❼吹出口切替スイッチ

次の３つのスイッチを押すと、温風、冷風の吹出口を切り換えることができます。



デフスイッチ
フロントガラスに向かって吹き出します。（ガラスのくもりとき、または凍結時に使用します。）



ベントスイッチ
左右両側の吹出口よりオペレータ側に吹き出します。



中間モードスイッチ
両吹出口から吹き出します。

❽フレッシュスイッチ（外気導入スイッチ）

フレッシュスイッチを一度押すごとに、空気の取り入れ口を内気循環側と外気取り入れ側に切り換えます。外気取り入れ側のときには、緑色のランプが点灯します。

エアコン冷暖房のしかた

①エアコンスイッチを「ON」にします。
②設定温度コンロールスイッチで希望の温度に設定します。
③ファン風量と吹出温度をオート制御にしたいときには、オートスイッチを「ON」にしてください。
※キャビン内の温度が低いとき（約15℃以下）は、エアコンスイッチを「ON」にしてもコンプレッサが作動せず、除湿できないことがあります。

エアコンを上手に使うには

- エアコン使用時に煙草を吸ったとき、目が痛くなることがあります。このようなときはフレッシュスイッチを押して、空気の取り入れ口を外気取り入れ側に切り替えて下さい。
- 湿度の高いときは、窓ガラスが曇やすくなります。空気の取り入れ口を外気取り入れ側に切り替えて、エアコンを作動させると便利です。
- 吹出口から霧が吹き出すことがあります。これは湿った空気がエアコンユニットを通過する際、水粒子が凍って吹き出されるもので、異常ではありません。

【取扱いの注意】

- **エアコンスイッチはコンプレッサなどに無理な力をかけないため、エンジンを始動した後「ON」させるようにしてください。**
- **炎天下の放置状態からエアコンを使う場合には一度、ドア、窓を開けて室内空気を入れかえた後、使用してください。**
- **長期間使用しないときも、エアコン内の冷媒ガスは規定量入れておきます。**
- **２～３週間ごとに１～２回、数分程度エアコンを作動させてください。コンプレッサやエアコン部品の油切れによるトラブルを防止できます。**
- **エアコンスイッチが「ON」の状態で冷暖房が効かない場合は「OFF」スイッチを押してください。異常な状態での連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い上げいただいた販売店または、農協で点検を受けてください。**

フィルターの清掃のしかた

ビスをゆるめて取り外してください。フィルターを300時間ごとに清掃してください。また汚れがひどい場合は、交換してください。



外気導入口用フィルターの清掃のしかた

フィルタが汚れて目づまりすると、外気導入時の吹き出し風量が少なくなりますので、キャビン後部の取り付けノブ２ヶ所を外して、フィルター部を取り外し、圧縮エアで汚れを落としてください。汚れがひどい場合は水洗いしてください。



キャビンの手入れと点検・調整

⚠警告

- **点検・整備は、交通の危険がなく、トラクターが倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、タイヤに車止めをして行ってください。守らないと、転倒などの事故を起こすおそれがあります。**

⚠注意

- **１年毎に定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料パイプやパワーステアリングホースは２年毎に交換してください。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。**
- **点検・整備・修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。**
- **点検・整備などで取り外したカバー類は、かならず取り付けてください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。**

定期点検や整備は、農閉期に行い農頻期には機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、１年ごとに販売店・整備工場で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。特に燃料パイプや、パワーステアリングホース、ラジエータホースなどのゴムホース類や電気配線は２年ごとに交換するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

1.エアコン定期点検一覧表

点　検　内　容	内　　容	整　　備	参照ページ
コンデンサ	汚れ・つまり	清　掃	106
フィルター	汚れ・すまり・はずれ	清　掃	106
Ｖベルト	張り具合・破損	調整または交換	106
温水バルブと温水配管	作動確認・水漏れ	増締め	106
各部品の締付部品	ボルトのゆるみ		107
配管とその接続部	冷媒漏れ		107

※１　Ｖベルトは６ヶ月毎の点検、または約50時間毎の点検を行ってください。

【取扱いの注意】

- **日常点検は必ず実施してください**

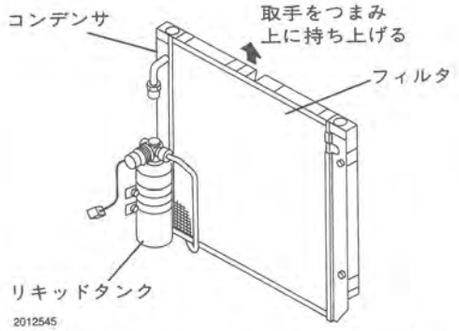
2.日常点検のしかた

⚠注意

- **エンジン運転中は、エンジンや回転部に手を触れないよう十分に注意してください。守らないとケガをするおそれがあります。**

コンデンサとフィルタの点検・清掃

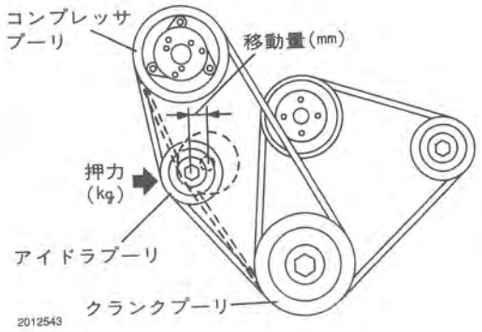
- コンデンサに泥・ゴミ・切り草が付着していると、エアコン能力が発揮できないので、やわらかいブラシを使用して水で洗い落します。



- コンデンサフィンがつぶれているときは、放熱効果を妨げるので⊖ドライバなどで修正する。
- コンデンサ前側と後側にあるフィルタの点検をし、泥・ゴミ・切り草が付着している場合は、フィルタを取り外して、やわらかいブラシを使用して水で洗い落します。

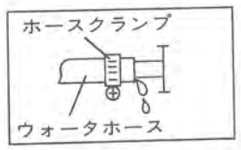
Vベルトの点検

本品は固定テンションプーリです。ベルトの張り力はアイドラプーリの移動量とその時の押力で点検します。押力10㎏の時、移動量が5㎜以下なら適正値です。



温水配管の水漏れ点検

- ウォータホース破損の場合は交換してください。
- ウォータホースのクランプ不良による水洩れは、クランプ修正に交換してください。
- ヒーターコア破損の場合は交換してください。

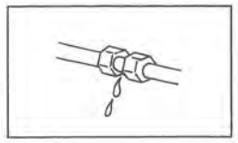


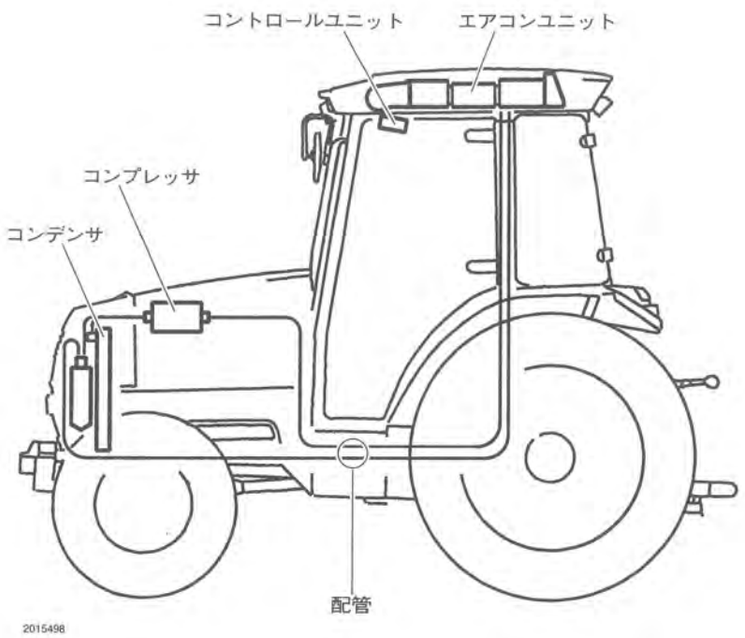
サイクル部品の点検

- サイクル部品（下記の部品）自体とその取付ボルトのゆるみや折損がないか、目視にて確認してください。
- ゆるみのある部品は、増締めし、亀裂・破損している部品は交換してください。

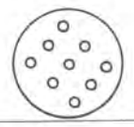
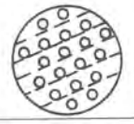
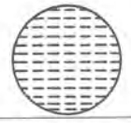
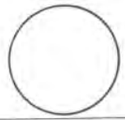
配管とその接続部

- 配管とその接続部にオイルのにじみ・ゴミ・ホコリの付着がないか目視にて確認してください。
- 配管接続部の増締めを行う際は、必ずダブルスパナを用いて行ってください。





冷媒量チエック表

エアコンの状態	異常なし	異常あり		
高・低圧パイプの温度	高圧パイプは熱く、低圧パイプは冷たい温度差がはっきりある。 コンプレッサ吐出側 温度　70℃ コンプレッサ吸入側 温度　5℃	高圧パイプはあたたかく、低圧パイプはやや冷たい。温度差はあまりない。	高圧パイプ、低圧パイプにほとんど温度差が感じられない。	高圧パイプは熱く、低圧パイプはやや温かいが温度差はある。
サイトグラスの状態	ほとんど透明、泡の流れが見えてもエンジン回転を上げたり下げたりすると透明になる。 ※1 	いつも気泡の流れるのが見える。透明または白泡のときもある。 	霧のようなものが流れているのがわずかに見える。 	ファンを最大で回し、窓を全開にしアイドリングで回しても気泡が見えない。 ※2 
パイプ接続部の状態	異常なし。	油が汚れている所がある。	油の汚れがはなはだしい所がある。	異常なし。
このエアコンの状態は	冷媒量も不足なく異常はない。	どこか少し漏れがあるかも知れない。	冷媒がほとんど漏れてなくなってしまったようである。	冷媒が過充填になっている。

※1　外気温度が低い時には、媒媒充填量が適正でも気泡が見えることがありますので、ご注意ください。
※2　冷媒がゼロ（無）の場合があるので、高・低圧パイプの温度差（無）を確認のこと…全々冷えない状態にある。

不調診断

※もし機械の調子が悪いときは、表を参考にし、必ずエンジンを止めてから診断してください。

1.エンジン関係

状況	点検箇所	処置
キースイッチを回してもスタータが回らない。	クラッチペダルを踏み込んでいますか。	クラッチペダルを完全に踏み込んでから、メインスイッチを「始動」に回してください。
	バッテリ液は規定量入っていますか。または放電してはいませんか。	バッテリ液を規定量補給し、満充電してください。
	バッテリ端子部のゆるみ外れ、腐蝕はありませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けて、グリスを塗布し防錆してください。
	メインヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。
	キースイッチが故障していませんか。	サービス工場で修理、または交換してください。
	セルモータが故障していませんか。	サービス工場で修理、または交換してください。
スタータは回るがエンジンが始動しない。	燃料タンクに燃料が入っていますか。	満タンに給油し、エア抜きをしてください。
	燃料にエアが混入していませんか。	燃料のエア抜きを行ってください。
	ウォーターセパレーター・燃料こし器の燃料コックが「C」(閉) 位置になっていませんか。	燃料コックを「O」(開) 位置にしてください。
エンジンが不規則に回転する。	燃料系統にエアが混入していませんか。	エア抜きをしてください。
	燃料に水が混入していませんか。	水を抜き、新しい軽油と交換してください。
	燃料フィルタが目詰まりしていませんか。	洗浄、または交換してください。

状　　況	点 検 箇 所	処　　置
エンジンが過熱する(オーバーヒート)。	冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。
	ファンベルトはゆるんでいませんか、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。
	ラジエータフィンが目詰まりしていませんか。	清掃してください。
	エンジンオイルが不足していませんか。	オイルを補給してください。
	過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。
エンジンの力が出ない。	エアクリーナが目詰まりしていませんか。	エアクリーナを点検してください。
	燃料噴射ポンプが焼付いていませんか。	サービス工場で修理してください。
	圧縮力が不足していませんか。	
	バルブクリアランスの調整は適正ですか。	
	噴射時期が悪くありませんか。	
運転中にラジエータ水量ランプが点灯した。	サブタンクの冷却水量が少なくなっていませんか。	冷却水の補給をしてください。
運転中にエンジン油圧ランプが点灯した。	エンジンオイル量が少なくなっていませんか。	オイルを規定量まで補給してください。
	エンジンオイルの粘度が低くありませんか。	適性粘度のオイルと交換してください。
	プレッシャスイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	オイルポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。
サーモスタートランプが点灯しない。	ヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。
運転中にチャージランプが点灯した。	レギュレターが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。
	ファンベルトのゆるみ、または破損はありませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。

2.クラッチ・ブレーキ関係

状　　況	点 検 箇 所	処　　置
クラッチがすべる、または切れない。	ペダルの作動は適正ですか。	クラッチワイヤーを調整してください。
	油圧ポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。
	クラッチワイヤーが破損していませんか。	ワイヤーを交換してください。
	クラッチ戻しスプリングが破損していませんか。	スプリングを交換してください。
ブレーキのききが悪い、または片ぎきする。	ブレーキの遊び量は適正ですか。	ペダルの遊び量を調整してください。
ブレーキペダルの戻りが悪い、またはブレーキが鳴く。	ブレーキ戻しスプリングが破損していませんか。	スプリングを交換してください。
	各摺動部のグリスが切れていませんか。	錆を落としてグリスアップをしてください。

3.油圧関係

状　況	点検箇所	処　置
作業機が上がらない。	油圧ストップ、フローコントロールバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップ、フローコントロールバルブを「開」にしてください。
	ミッションオイルが不足していませんか。	規定量まで補給してください。
	吸入パイプ系統からエアの吸い込みがありませんか。	フィルタケースや取付部などを増し締めし、パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損していれば交換してください。
	オイルフィルタが目詰まりしていませんか。	清掃または交換してください。
	油圧ポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。
	電磁バルブが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。
シャトルレバーを「R」にしても、作業機が上がらない。 〔クイックアップスイッチを「上げ」にしても、作業機が上がらない。〕	バックスイッチの接触は、悪くありませんか。	バックスイッチを確認してください。
	JAC回路のヒューズが切れていませんか。	新しいヒューズと交換してください。(93ページ)
作業機が下がらない。	油圧ストップ、フローコントロールバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップ、フローコントロールバルブを「開」にしてください。
	電磁バルブが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。
クイックアップスイッチを「下」にしても、作業機が下がらない。	作業機上下レバーが「上昇」位置になっていませんか。	作業機上下レバーを下降方向に移動させてください。

4.電装関係

状　況	点検箇所	処　置
ヘッドランプが点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ソケットから配線が外れていませんか。	点検セットしてください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
フラッシャランプが点めつしない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	フラッシャユニットが故障していませんか。	フラッシャユニットを交換してください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
ランプ類が点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	配線の接続が悪くありませんか。	点検し確実に接続してください。
	スイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	アースの状態が悪くありませんか。	アース線を確実に車体に締めつけてください。
	バッテリが放電していませんか。	充電してください。
ホーンが鳴らない。	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ホーンスイッチの接触が悪くありませんか。	ホーンスイッチを確認してください。

5.ロータリー関係

状　況	点検箇所	処　置
エンジンをかけるとロータリーが上がり、異常音が出る。	リヤカバーが「上げ」の状態になっていませんか。	リヤカバーを下げてください。
作業機上下レバーを、「下」にしても、作業機が下がらない。	油圧ストップ・フローコントロールバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップ・フローコントロールバルブを反時計方向に回し、「開」にしてください。

用語解説

あ行

アタッチメント
トラクターに後付けする部品

安全スイッチ
クラッチを踏まないと、エンジンがかからないようにするためのスイッチ

安全キャブ
トラクター転倒時、作業者を保護するための国の検査に合格したキャビン

E-JAC
作業機の左右の傾きや耕深をコンピュータにより全自動で行う装置

か行

クリープ
超低速の作業速度

耕深
耕うんする深さ

さ行

3点リンク
トラクターに作業機を装着する為の3点で支持を行うリンク

サーモスタート
寒冷時、エンジンの始動性を良くするための補助装置

下げクッション
作業機が地面に接地する直前に作業機をゆっくり下げることにより、作業機を地面に降ろしたときに生じる、土の盛り上がりやトラクターの思わぬ前進を防止する

ジェネレータ
エンジンからの動力で電気を発生させる装置

軸距
前・後タイヤの中心間の距離

スーパーヒッチ
トラクターに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

た行

チェックチェーン
トラクターに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェーン

トップリンク
作業機を装着する3点のリンクの内、作業機の上部をつり下げているリンク

ドライブシャフト
トラクターの動力を作業機へ伝達するための軸

は行

バックアップ装置
シャトルレバーを「後進」に入れると自動的に作業機が上昇する装置

ヒュージブルリンク
電気配線に規定以上の電流が流れた場合に、電気系統の保護を行う部品

PTO（パワー テイク オフ）
作業機の動力を取り出すための軸

や行

揚力
トラクターが作業機を上昇させるための力

ら行

リフトアーム
トラクターの作業機を上げるためのアーム

リフトリンク
リフトアームとロアリンクを連結しているリンク

リリーフ弁
油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁

輪距
左右のタイヤ中心間の距離

ロアリンク
作業機を装着する3点のリンクの内、作業機の下部をつり下げているリンクで左右1本ずつある

仕様

MT501

項目			型式 MT501	備考
重量	車両重量 (kg)		2215	3P付
	荷重 (kg)	前輪	990	
		後輪	1225	
	附荷重量 (kg)	後輪	25kg×8	アタッチメント
		本体	30kg×6	アタッチメント
機関出力 (PS/rpm)			50/2500	
形状			ホイールトラクター	
車種			小型特殊自動車	
性能 走行速度 km/h (m/sec)	前進	C 1速	0.22 (0.06)	最高速度 30.39 (km/h)
		C 2速	0.30 (0.08)	
		C 3速	0.35 (0.10)	
		C 4速	0.50 (0.14)	
		C 5速	0.60 (0.17)	
		C 6速	0.85 (0.24)	
		1速	1.62 (0.45)	
		2速	2.29 (0.64)	
		3速	2.69 (0.75)	
		4速	3.81 (1.06)	
		5速	4.60 (1.28)	
		6速	6.51 (1.81)	
		7速	7.35 (2.04)	
		8速	10.41 (2.89)	
		9速	12.21 (3.39)	
		10速	17.30 (4.81)	
		11速	20.90 (5.81)	
		12速	29.62 (8.23)	
	後進	CR1速	0.21 (0.06)	
		CR2速	0.30 (0.08)	
		CR3速	0.35 (0.10)	
		CR4速	0.50 (0.14)	
		CR5速	0.60 (0.17)	
		CR6速	0.85 (0.24)	
		R 1速	1.61 (0.45)	
		R 2速	2.28 (0.63)	
		R 3速	2.68 (0.74)	
		R 4速	3.80 (1.05)	
		R 5速	4.58 (1.27)	
		R 6速	6.50 (1.81)	
		R 7速	7.33 (2.04)	
		R 8速	10.38 (2.89)	
		R 9速	12.18 (3.38)	
		R 10速	17.26 (4.80)	
		R 11速	20.85 (5.79)	
		R 12速	29.54 (8.21)	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。
※走行速度はハイラグタイヤ仕様。

項目			型式 MT501	備考
機体寸法	全長 (mm)		3465	ロアリンクまで
	全幅（標準性能） (mm)		1600	
	全高 (mm)		2460	
	軸距 (mm)		1900	
	輪距	前輪 (mm)	1290	
		後輪 (mm)	1260	
	最低地上高 (mm)		355	
機関	銘柄型式		4TNV94	
	種類		ディーゼル	
	冷却方式		水冷ラジエータ	
	シリンダ数		4	
	内径×行程 (mm)		94×100	
	総排気量 (cc)		2775	
	燃料系統	噴射ポンプ	ホール弁	
		噴射弁形式	Eガバナー	
		燃料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量 (ℓ)		65	
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイド圧送式	
		潤滑油量 (ℓ)	10	
	冷却水量 (ℓ)		7.5	サブタンク仕様
	電気系統	充電発電機 (V-W)	12－55	
		始動発電機 (V-kW)	12－2.3	
		蓄電池 (V-Ah)	12－110	
動力伝動部	主クラッチ		油圧クラッチ	
	変速機潤滑油量 (ℓ)		39	
	差動装置形式		傘歯車式（デフロック付）	
	終減速機形式		平歯車	
走行装置	車輪	前輪	8－18	
		後輪	13.6－28	
	かじ取装置		全油圧パワーステアリング	
	足ブレーキ		湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		ハンドブレーキ	
運転装置	計器類及び照明装置		アワメータ、水温計、フラッシャパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、尾灯、サーモパイロットランプ、リフトアップランプ、駐車パイロットランプ、4WDパイロットランプ、他	
動力取出軸	回転方向		右回り（軸に向かって）	
	軸寸法 (mm)		JIS 35	
	軸回転速度 (rpm)		553、742、1052	
	その他駆動部		なし	
けん引装置形式			ピン固定式	
作業機昇降装置	装着装置の種類規格		3点リンク JIS I形	
	標準ロータリー			
	油圧制御方式		ポジションコントロール付	

MT551

項目			型式 MT551	備考
重量	車両重量 (kg)		2255	3P付
	荷重 (kg)	前輪	965	
		後輪	1290	
	附荷重量 (kg)	後輪	25kg×8	アタッチメント
		本体	30kg×6	アタッチメント
機関出力 (PS/rpm)			55/2500	
形状			ホイールトラクター	
車種			小型特殊自動車	
性能 走行速度 km/h (m/sec)	前進	C 1速	0.22 (0.06)	最高速度 31.66 (km/h)
		C 2速	0.31 (0.09)	
		C 3速	0.37 (0.10)	
		C 4速	0.52 (0.14)	
		C 5速	0.63 (0.17)	
		C 6速	0.89 (0.25)	
		1速	1.68 (0.47)	
		2速	2.39 (0.66)	
		3速	2.80 (0.78)	
		4速	3.96 (1.10)	
		5速	4.79 (1.33)	
		6速	6.79 (1.89)	
		7速	7.66 (2.13)	
		8速	10.85 (3.01)	
		9速	12.73 (3.54)	
		10速	18.03 (5.01)	
		11速	21.78 (6.05)	
		12速	30.86 (8.57)	
	後進	CR1速	0.22 (0.06)	
		CR2速	0.31 (0.09)	
		CR3速	0.37 (0.10)	
		CR4速	0.52 (0.14)	
		CR5速	0.63 (0.17)	
		CR6速	0.89 (0.25)	
		R 1速	1.69 (0.47)	
		R 2速	2.40 (0.66)	
		R 3速	2.81 (0.78)	
		R 4速	3.99 (1.10)	
		R 5速	4.81 (1.33)	
		R 6速	6.82 (1.88)	
		R 7速	7.70 (2.12)	
		R 8速	10.90 (3.01)	
		R 9速	12.79 (3.53)	
		R10速	18.13 (5.00)	
		R11速	21.89 (6.04)	
		R12速	31.02 (8.55)	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。
※走行速度はハイラグタイヤ仕様。

項目			型式 MT551	備考
機体寸法	全長 (mm)		3520	ロアリンクまで
	全幅 (標準性能) (mm)		1630	
	全高 (mm)		2485	
	軸距 (mm)		2010	
	輪距	前輪 (mm)	1310	
		後輪 (mm)	1300	
	最低地上高 (mm)		385	
機関	銘柄型式		4TNV98	
	種類		ディーゼル	
	冷却方式		水冷ラジエータ	
	シリンダ数		4	
	内径×行程 (mm)		98×110	
	総排気量 (cc)		3318	
	燃料系統	噴射ポンプ	ホール弁	
		噴射弁形式	Eガバナー	
		燃料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量 (ℓ)		65	
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイド圧送式	
		潤滑油量 (ℓ)	10	
	冷却水量 (ℓ)		7.5	サブタンク仕様
	電気系統	充電発電機 (V-W)	12−55	
		始動発電機 (V-kW)	12−2.3	
		蓄電池 (V-Ah)	12−110	
動力伝動部	主クラッチ		油圧クラッチ	
	変速機潤滑油量 (ℓ)		39	
	差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)	
	終減速機形式		平歯車	
走行装置	車輪	前輪	8.3−20	
		後輪	12.4−32	
	かじ取装置		全油圧パワーステアリング	
	足ブレーキ		湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		ハンドブレーキ	
運転装置	計器類及び照明装置		アワメータ、水温計、フラッシャパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、尾灯、サーモパイロットランプ、リフトアップランプ、駐車パイロットランプ、4WDパイロットランプ、他	
動力取出軸	回転方向		右回り(軸に向かって)	
	軸寸法 (mm)		JIS 35	
	軸回転速度 (rpm)		553、742、1052	
	その他駆動部		なし	
けん引装置形式			ピン固定式	
作業機昇降装置	装着装置の種類規格		3点リンク JIS I形	
	標準ロータリー			
	油圧制御方式		ポジションコントロール付	

MT601

項目			型式 MT601	備考
重量	車両重量 (kg)		2255	3P付
	荷重 (kg)	前輪	965	
		後輪	1290	
	附荷重量 (kg)	後輪	25kg×8	アタッチメント
		本体	30kg×6	アタッチメント
機関出力 (PS/rpm)			60/2500	
形状			ホイールトラクター	
車種			小型特殊自動車	
性能 走行速度 km/h (m/sec)	前進	C 1速	0.22 (0.06)	最高速度 31.66 (km/h)
		C 2速	0.31 (0.09)	
		C 3速	0.37 (0.10)	
		C 4速	0.52 (0.14)	
		C 5速	0.63 (0.17)	
		C 6速	0.89 (0.25)	
		1速	1.68 (0.47)	
		2速	2.39 (0.66)	
		3速	2.80 (0.78)	
		4速	3.96 (1.10)	
		5速	4.79 (1.33)	
		6速	6.79 (1.89)	
		7速	7.66 (2.13)	
		8速	10.85 (3.01)	
		9速	12.73 (3.54)	
		10速	18.03 (5.01)	
		11速	21.78 (6.05)	
		12速	30.86 (8.57)	
	後進	CR1速	0.22 (0.06)	
		CR2速	0.31 (0.09)	
		CR3速	0.37 (0.10)	
		CR4速	0.52 (0.14)	
		CR5速	0.63 (0.17)	
		CR6速	0.89 (0.25)	
		R 1速	1.69 (0.47)	
		R 2速	2.40 (0.66)	
		R 3速	2.81 (0.78)	
		R 4速	3.99 (1.10)	
		R 5速	4.81 (1.33)	
		R 6速	6.82 (1.88)	
		R 7速	7.70 (2.12)	
		R 8速	10.90 (3.01)	
		R 9速	12.79 (3.53)	
		R10速	18.13 (5.00)	
		R11速	21.89 (6.04)	
		R12速	31.02 (8.55)	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。
※走行速度はハイラグタイヤ仕様。

項目			型式 MT601	備考
機体寸法	全長 (mm)		3520	ロアリンクまで
	全幅 (標準性能) (mm)		1630	
	全高 (mm)		2485	
	軸距 (mm)		2010	
	輪距	前輪 (mm)	1310	
		後輪 (mm)	1300	
	最低地上高 (mm)		385	
機関	銘柄型式		4TNV98	
	種類		ディーゼル	
	冷却方式		水冷ラジエータ	
	シリンダ数		4	
	内径×行程 (mm)		98×110	
	総排気量 (cc)		3318	
	燃料系統	噴射ポンプ	ホール弁	
		噴射弁形式	Eガバナー	
		燃料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量 (ℓ)		65	
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイド圧送式	
		潤滑油量 (ℓ)	10	
	冷却水量 (ℓ)		7.5	サブタンク仕様
	電気系統	充電発電機 (V-W)	12−55	
		始動発電機 (V-kW)	12−2.3	
		蓄電池 (V-Ah)	12−110	
動力伝動部	主クラッチ		油圧クラッチ	
	変速機潤滑油量 (ℓ)		39	
	差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)	
	終減速機形式		平歯車	
走行装置	車輪	前輪	8.3−20	
		後輪	12.4−32	
	かじ取装置		全油圧パワーステアリング	
	足ブレーキ		湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		ハンドブレーキ	
運転装置	計器類及び照明装置		アワメータ、水温計、フラッシャパイロットランプ、チャージパイロットランプ、オイルパイロットランプ、燃料計、前照灯、ホーン、方向指示灯、尾灯、サーモパイロットランプ、リフトアップランプ、駐車パイロットランプ、4WDパイロットランプ、他	
動力取出軸	回転方向		右回り(軸に向かって)	
	軸寸法 (mm)		JIS 35	
	軸回転速度 (rpm)		553、742、1052	
	その他駆動部		なし	
けん引装置形式			ピン固定式	
作業機昇降装置	装着装置の種類規格		3点リンク JIS I形	
	標準ロータリー			
	油圧制御方式		ポジションコントロール付	

標準付属品

付属工具	品名	仕様	個数
	両口スパナ	8×10	1
	両口スパナ	12×14	1
	両口スパナ	17×19	1
	両口スパナ	22×24	1
	両口スパナ	27×30	1
	両口スパナ	22×24	1
	メガネレンチ	26×32	1
	キセルレンチ	22	1
	プライヤー	150	1
	ねじ回し	差換式	1
	グリースポンプ		1
	ハンマー	1 ℓb	1
	ジャッキ	2 ton	1

付属品及び予備品	品名	個数	備考
	取扱説明書	1	
	保証書	1	
	スターターキー	1	
	PTOシャフトカバー	1	
	ボールソケットピン	2	
	クイックカプラー	2	SCV2連仕様